



LE COEUR

34号



目次

「塩の道」を訪ねて……………	校長 銀林 重信……………	6
松高生の実態……………アンケート特集……………		7
クラス紹介……………		18
留学体験記…アメリカ留学感想……………	二C 河崎 丹美……………	38
随 想 (一)「戦後四十年」について……………	二D 山川 千佳子……………	45
平和を守るために……………	二D 斎藤 由記子……………	46
創作 友への手紙……………	一E 原田 知子……………	47
詩 二編……………	中原 みき……………	49
随 想 (二)「かがみ」……………	二E 小林 さやか……………	51
世田谷線にゆられて……………	二G 佐藤 宣子……………	52

行事報告 体育祭……………		53
輝松祭……………		58
輝松祭について……………	二G 古川 泰……………	62
クラブ紹介……………		63
委員会報告……………		73
生徒会長御挨拶……………	二D 石井 友規……………	77
編集に携わって……………	顧問 鶴田 淑子……………	78
編集後記……………		79

表紙 伊佐多美子
 中扉 館野菜々子
 扉及びカット 館野菜々子 堀井利子
 伊佐多美子 他
 写真提供 写真部

「塩の道」を訪ねて

校長 銀林 重信

ある年の夏、私は句帖を懐に塩の道を訪ね歩いた。

「塩の道」——千国（ちくに）街道は、長野県松本市からフォッサマグナ（静岡—糸魚川大地溝帯）に沿い、日本海北陸沿岸の新潟県糸魚川市に至る約一二〇キロの道である。

この道は松本街道・糸魚川（いといがわ）街道とも呼ぶ。時代により場所によって道筋が変わったが、越後・信濃を結び、塩や麻を主とする海陸交易の要路であった。

越後より信濃へ飛燕塩の道

殊に、大町市から四ヶ庄（白馬村）、小谷（おたり）村を経て越後への道は険しく、豪雪に埋もれる冬の自然はきびしかった。嘗て、この道を重い荷を背負って運ぶ途中、吹雪の中を難渋して行き倒れた歩荷（ボッカ）たちの悲話が語り伝えられている。

合歡（ねむ）咲いて昼寐がしたし歩荷宿

千国から登る地藏峠には、厳寒に耐え、雪解けの五月中旬から六月初旬にかけて深紅の花を開く「雪椿」（新潟県花）が大群落をなして咲く。ブナの原生林の中を溪谷添いに登る大綱峠には今も塩蔵が残っている。

戦国時代、謙信が信玄に塩を送ったというこの道は、旧い道ほど高くなっている。これは、雪崩や地すべり、洪水

を避けるためであったと言われる。

この時の吟行は、国鉄大糸線白馬大池からバスで樽池高原親の原で下車、親の原に入った。ここには、雪道で遭難した人たちの霊を慰める石仏観音が集められ、ひっそりとねむっていた。どの像も朝霧に濡れ、瞳が涼しかった。

観音像肩みなやさし霧が来て

せせらぎに添い、親の原から旧道を下り、千国街道と交わるあたりに、今も茅葺（かやぶ）きの牛方宿が一軒ある。くぐり戸を入ると、右側の中二階が牛方の寝間、左側に牛を見守る牛小屋があり、うす暗い小屋には牛はいなかったが、飼葉桶が吊されていた。

牛方宿牛を探せば閑涼し

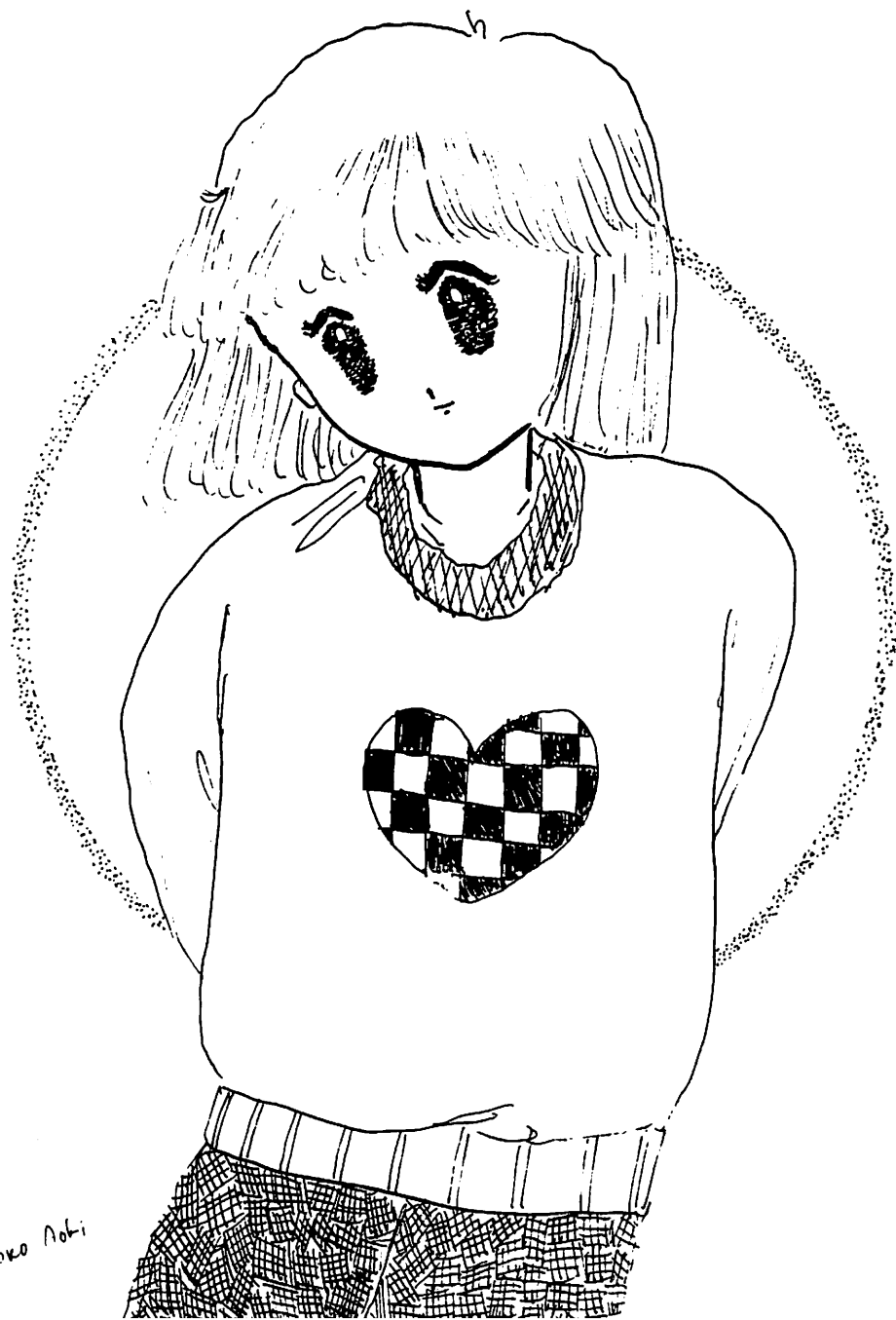
牛方宿から親の坂を下り、岩清水の湧く「牛の水呑場」、牛つなぎ石、錦岩等を経て再び街道に出る。この親の坂の小径は、公の運送路ではなく、街道筋にある関所（番所）を避けて密かに牛で荷を運んだ裏道であり、大変な難路であったという。千国から小谷へ向かう道添いに流れる姫川の川床は、幾度かの氾濫のため所々沿道より高く、濁流が渦巻き、河原の穂芒の中に萩や葛の花がこぼれるように咲いていた。

番所跡風がころがす一位（いちい）の実

塩を運んだ牛方や、歩荷たちの労苦を偲び、信濃、越後の生活文化交流のルートを歩き、長くきびしかった人間と自然のドラマを胸に描きつゝ、故郷の糸魚川へ向かった。

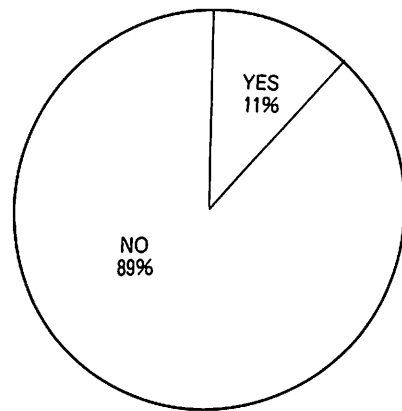
星飛んで野仏ねむる塩の道

アンケート特集



松原高校校内アンケート

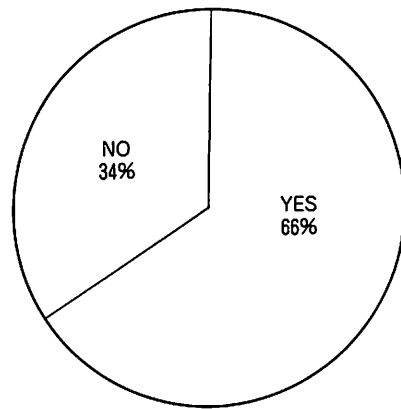
Q 1 今、学校の校風に満足しているか？



学校の校風に満足しているかというアンケートについて、自分で予想したところ、満足している(YES)、不満である(NO)が、半分半分ぐらいではないかと思っていたが、意外に今の校風に不満を抱いている人が多いようです。では、どんな校風を作ったらいかなどな校風をなくしたらいいかと、クエスチョンしましたところ昼休みの外出許可、バイク通学許可、アルバイト許可などを希望する声が多く次いで体育館開放、活気のある明るい高

校などでした。また、なくした方がいいと答えたのは停学処分、単位制などでした。(蔭の声——これは、規則についてのもので、校風に対する答とは、ちよつと違うような気がする。校風は自分達で作っていくものでは?)

Q 2 先生について満足しているか？



国で行なった中・高生の実態調査で一番尊敬するのは親であり、親とは本音でつきあわなくてはいけないが、先生とはうわべだけでつきあうものという結果がでたようだが、うちの学校はなんと66%の人が先生を信頼しているのです。父ちゃんうれしくて涙出るくらいと言いたくなります。タコさんもイカさんも先生もみなさん喜んでください。

(1) 先生に要求すること ベスト3

3位……成績を上げてほしい

これは、みんながそう思っているでしょうが、これだけは努力するしかないのでは？

2位……もっと楽しい授業

授業がつまらないと、だんだんあきてきてねむくなってしまうんですよね！(もしや僕だけでは)先生方、もう少しおもしろい授業に心がけて下さい。ブツブツ

1位……わかりやすい授業

自分達のレベルもあるかもしれませんが、私達に合った程度の言葉を使い大きな声で授業をしてください。

(2) やめてもらいたいこと ベスト3

3位……子供の話

先生によって違うようですが、話をしている本人は楽しそうにしゃべっているようですが、れど聞いているのはつまらないことです。

2位……授業をのばすこと

Q 3 好きな教科・嫌いな教科は？

これは、好みの問題なので理由は書きにくいので結果だけ発表します。

1位……いやみをいうこと

区切りのいい所までやってしまおうという気持ちにはわかりますが、一時間を計画的に使えないものでしょうか？ あゝあ、授業終わるの遅いからジュース買いそこなつた。

性格にもよるでしょうが、いやみを言われて気持ちがいい人はいません。かえって勉強したくなくなります。

好きな教科

1位……体育 127

2位……英語 71

3位……数学 68

以下 現代社会・現代国語・世界史・化学・日本史の順でした。

嫌いな教科

1位……数学 111

2位……英語 83

3位……日本史 40

以下

現代国語・現代社会・体育の順でした。

全部嫌いという解答が5点くらいありました。

Q 4

増やしてほしいと思う教科・減らしてほしいと思う教科

増やしてほしいと思う教科

・英会話 21 将来ためになる。

外人と話ができる。

・体育 29 勉強しないですむ

違う種目をやりたい。

他、英語以外のいろいろな外国語・道徳・技術など。

その他の少数意見では、ついでにけるものもあれば、ついでにけないものもある。授業内容がよくないのでついでにけないなどの他、早くふとんに入りたい、腹へった。など意味のわからない答えがありました。

また、グラフを見て驚いたことに8%の人が授業中寝ているようです。1クラス50人とすると、約4人の人が寝ているのです。どうです驚いたでしょう？驚かない。なに、自問自答してこの原稿書いた奴バカじゃないかって、バカでもアホでもいい。たくましくぞだつてほしい。オイ、オイ、違つて！ わりー、わりー。ですから、せっかくここまで読んでだんだし、最後まで読んでチョンマゲ。決してチリ紙交換に出そうとか、火で燃やそうなんて思わないで下さい。

Q 6

あなたは一日平均どのくらい勉強していますか？

たぶんこの結果をみたら、みんな勉強してないからおれも勉強するのやめた。私も勉強するのやめた。という人がいると思います。いないよそんな奴つて思う人もいるかも知れませんが、少なくとも一人はいるのです。私です私、アンケートの原稿を書いたバカな奴です。(フーねむたい疲れた。このところ原稿書いて夜寝るのが遅いのよ、わかる？ちなみに今の時間は、深夜の二時四十四分二十五秒だよん。別に書く事がないからつてこんな変な原稿書いてス

減らしてほしいと思う教科

・社会(現代社会・日本史・世界史) 54人

暗記するのがたいへん

つまらない・きらい

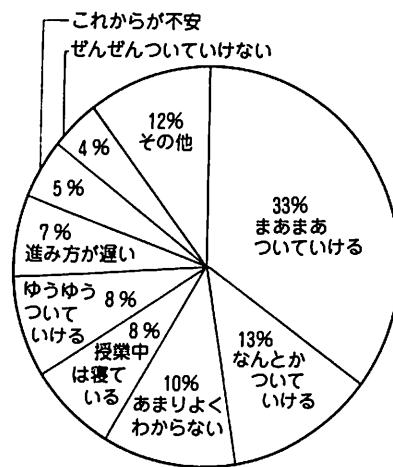
・理科系 47 実生活に役に立たないから

つまらない

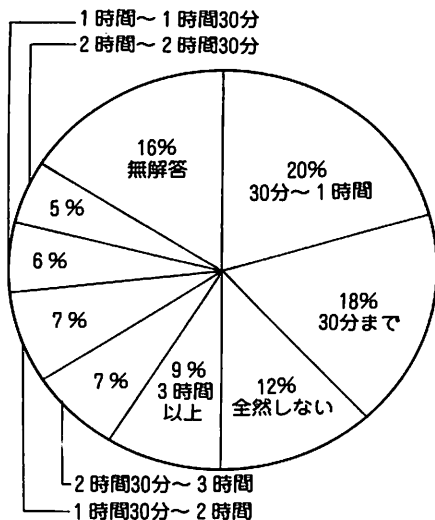
他は、英語・数学・古典などで理由はみんな、きらい、つまらないが圧倒的でした。

Q 5

授業についていきますか？



ペースを埋めているわけではありません。(では、どれくらい勉強しているか円グラフで表してみましたと思います。)



このような結果でした。ななななななで、ながなな回そんな事は置いて、なんと勉強の量が1時間以下の人が50%も占めているのです。16%の部分の中にも多くいると思われるので全部で60%ちよつとの人が、勉強を1時間以下しかしていないのです。また全然しないという人が12%も占め1時間～1時間30分・1時間30分～2時間・2時間～2時間30分・2時間30分～3時間・3時間以上と、この5つをぬいて堂々第3位なのです。みなさんもう少しがんばつて勉強しましょう。

このアンケートは、前半と後半に分けて二人で担当し、私が前半を担当したんですが、書く場所が1ページ余ってしまったので途中で、変な解答特集をやりたいと思います。

変な解答特集

Q1の変な解答 ・ 学校に来るパン屋さんで豆腐と納豆を売る。

Q2の変な解答 要求すること

- ・ じんたんのにおいを消す。
- ・ おじいちゃんの歯くさい。
- ・ やめて下さい。

やめてもらいたい事

- ・ 授業中おならをする事

Q3の変な解答

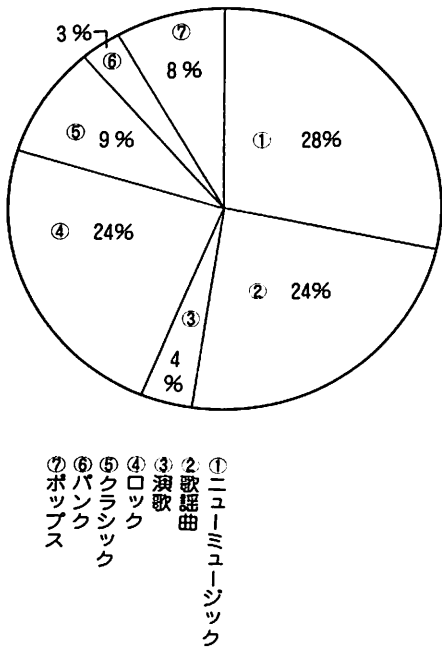
好きな科目

- ・ 農業
- ・ 毎時間寝ている私にとっては全部が好きな科目さ

嫌いな科目

- ・ 塩大さじ2 はい、マヨネーズ少々

レビューなんか色々なジャンルにまたがっている。パワフルな歌唱娘本田美奈子のLPがアイドルに珍しくオリコン二位で（普通アイドルのLPはほとんど売れないのに）私はびっくりしたと同時にまた人気の凄さを知ってさみしく感じた。安全地帯は一位！



Q8 あなたの好きな歌手 or ミュージシャンは？

結果はバラバラでしたので、名前をスペースの許す限り挙げていきます。自分の好きな歌手が載らなかった！というあなた、すみませんでした。

サザンオールスターズ（これが一番多かった）・ユーミン・

Q4の変な解答 増やしたらいい教科

- ・ ゲートボール
- ・ まくら投げ

Q5の変な解答

- ・ 授業についていけないにきまっているだろ、ついていけてなければ今おれはこの学校にいないんだよ！こんなくだらない質問するな。

Q6の変な解答は特にありませんでした。

以上 こんな原稿だけど許してチョンマゲ。

では、続いて、趣味の分野についてです。

Q7 あなたの好きな音楽のジャンルは？

見る音楽と聴く音楽は違うからミハーのアイドル歌手ばかりで歌が下手なのが多い歌謡曲が一位になるのは思えなかったが、予想通り高校生らしくニューミュージックが一位だった。最近安全地帯が目立ってきているが2Aのある女の子が「安全地帯は昔の方がよかったよ」と言っていた。しかし私はあまりジャンルの区別がわからない。例えばパンクとは一体具体的にどういうものか知らないし、稲垣さんや吉川、チェッカーズや安全地帯、スターダスト

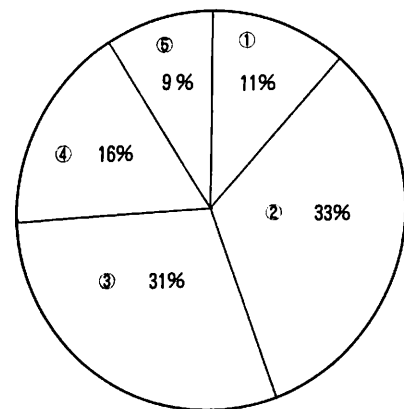
オフコース・中島みゆき・松川聖子・佐野元春・オメガトライブ・チェッカーズ・大滝詠一・中森明菜・小泉今日子・尾崎豊・井上陽水・山下達郎・吉田拓郎・安全地帯・稲垣潤一・RCサクセション・爆風スランプ・アルフィー・レベッカ・YMO……など。

Q9 あなたの好きなテレビ番組は？

これも結果がバラバラなので、例を挙げていきます。
ザ・ベストテン・プロ野球・夕やけニャンニャン・おれたちひょうきん族・ザ・トップテン・トライアングルブルイ・北斗の拳・サザエさん・アメリカ横断ウルトラクイズ・クイズ100人に聞きました・クイズダービー・双六ゲーム・ウルトラアイ・クイズヒントでピント・パネルクイズアタック25・クイズタイムショックなど。

Q10 一日にどの位テレビを見ますか？

意外とみんなテレビを見ないな！というのが感想である。私は、クイズものや歌番組が大好きで多い日には一日三時間位見る時もあるから、一時間以下が33%もいたのには本音をいうとびっくりした。まして全然見ない11%の人々なんか、修学旅行の自由外出時間にアメリカ横断ウルトラクイズを孤独に見ていた私からいわせれば人間とは思えない。夜の旅館は暗かったなあ。



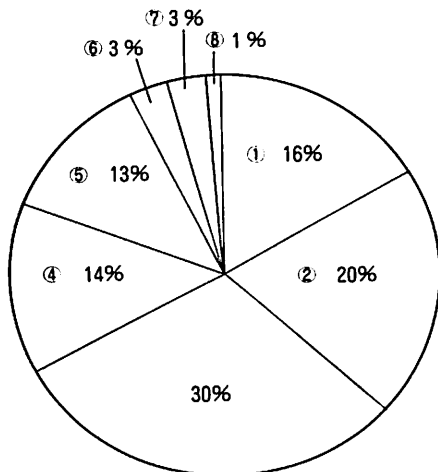
① 全然見ない
② 0～1時間
③ 1時間～2時間
④ 2時間～3時間
⑤ 3時間以上

Q11 あなたの好きなスポーツは？

まず、多かったポピュラーなもの。

- ラグビー
- バレーボール
- バスケットボール
- テニス
- 野球
- 卓球
- サッカー
- スキー
- ソフトボール
- バトミントン など。
- 山登り
- classic ballet
- 器械体操
- 体操

Q13 あなたの預金は どの位ありますか？



① 全然ない
② 0～1万
③ 1万～5万
④ 5万～10万
⑤ 10万～15万
⑥ 15万～20万
⑦ 20万～25万
⑧ 25万以上

私は、選択肢を六十万までつくってしまつて無駄だといわれた。自分に合わせて六十万までつくつたのだが、みんな「六十万も持つてる奴なんかいるのか、ギャー」といつていた。しかし中には二十万などという調子のはずれたことを書いた奴もいたから……。一応、はぶいてしまつたが……。

- 柔道
- ジョギング などでした。
- ダンス

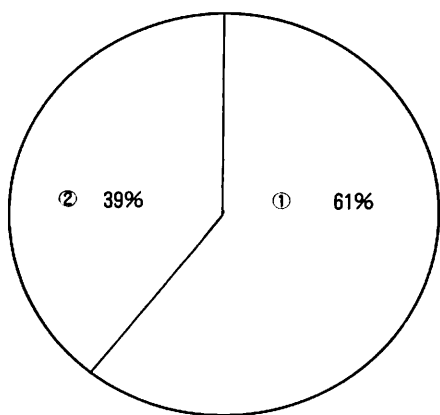
Q12 あなたがよく読む雑誌は？

これも、結果をどんどん並べていきます。

ぴあ、めばえ、なかよし、オリブ、別冊マーガレット、ベストバイク、ジュニアスタイル、アンアン、少年ジャンプ、セブンティーン、ラグビーマガジン、ホットドッグプレス、ノンノ、りぼん、ちゃお、ひとみ、ララ、フレンド、月刊明星、月刊平凡、明星別冊ヘアカタログ(メンズ)、明星別冊ヘアカタログ、サンサン、レモン、シスター(これがわりと多かった)、少年チャンピオン、少年マガジン、週刊アクション、少年サンデー、少女プリンセス、ミミ、ブー、ジュディ、ジュリエット、デラックスマーガレット、ビッグコミック、ビッグコミックスピリッツ、フレッシュジャンプ、そうえん、週刊新潮、週刊文春、週刊明星、エンマ、フォーカス、フライデー、ジュニー、フロムA、りぼんオリジナル、モモコ、オムニ、パチパチ、バックステージ、ベストヒット、FMステーション、週刊FM、FMレコパル、旅、ピチ、メル、テレビガイド、ザ・テレビジョン、写楽、テレビライフ、文芸春秋、女性セブン、ミュージックライフ、ブレイヤー、ウイズ、ヴァンサンカン、ダンク、ぱる、ボム、ヘアビューティー、プチセブン、ポップティーン、エルティーン、宝島、科学の友

Q14 (クラブに入っている人) クラブは楽しいですか？

またその理由
は？



① 楽しい
② 楽しくない

それぞれの理由としては

○ 楽しい……おもしろいから・楽しいから・学年を通じて仲良くやっているから・楽しいのに

理由なんてない……など。

○ 楽しくない……先輩が嫌だ・後輩が生意気・かつたらいクラブに出てないから・活動がマンネリズムだから……など。

Q15

新しく作ってほしいor復活させてほしい
クラブがありますか？

なんといっても、一番票数の多かったのが、
○軽音楽

確か私が一年の時、軽音楽同好会というものが
できた筈だ。会合の時私は出た記憶があるが、た
しか部長が重松とかいう先輩で、一年は私一人だ
ったのでしつかりおぼえている。あれは一体どう
なったのだろうか？

私以外は全員三年生だったわけだから（現在）
消えてしまったのだろう。

その他……

○ファミコン（何のことかわけがわからない）

○落語

○アメリカンフットボール

○体操

体操クラブは、部員が今全員三年生で、休部中
である。そして、部員になりたい人が今自分を入
れて二名位（と顧問の先生がおっしゃってた）だ
そう。

まあ、当分復活は考えられませんね。

私はこのクラブを作ってほしい。

○アニメと関係しないまんが研究会

○弓道部 など。

Q16

あなたはクラブ以外で自分で何かスポー
ツをやっていますか？

一番多かったのがジョギング。私も好きでよくやる。
その他……

○水泳

○classic ballet

○柔道

○ジャズダンス

○筋トレ

しかし女は鍛えても筋肉がつかないから悲しい。

Q17

あなたの特技は何ですか？

例をどんどん挙げていきます。

○人以上に努力すること

○たくさん

○走るのがはやい

○野球がうまい

○classic ballet

○大食い

○思った五秒後に泣ける

○遅刻過去十八回

○五十メートル、八秒フラットだぜ

Q18

あなたは将来どんな職業に就きたいです
か？

これもどんな結果を挙げていきます。

○エンジニア

○美容師

○アナウンサー

○メーカーアップ アーチスト

○先生（これが意外と多かった。）

○警察官

○雑誌の編集長（これは苦しい。ルクルール編集長がいう
のだから間違いない。）

○トレーナー

○無職

○婦警さん

○ハウスマヌカン（女の子に多かった）

○無職にならない公務員（そうか。そうだったのか。）

○まんが家（少数の……ごく少数です。）

○テレビ局につとめる

○ディスクジョッキー

○主婦

○まだ決まっていない

○スチュワーデス

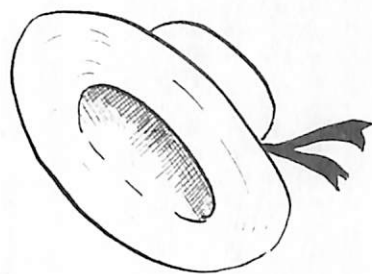
○落語家

などでした。

アンケートに御協力ありがとうございました。



クラス紹介



1年A組

○月×日、草木も眠る丑三つ時、池田君登校。数時間後級友が続々登校。チャイムの余韻の中、美恵と圭子ちゃんおでこ全開ランニング。一時間目、グラマーのK先生御入場。新聞を読んで礼をしなかったのむさん諭される。葉百仁さんいきなり父の話をされ困る。原田さん先生と答えがあわず反発、那須さんヘルプ。授業終了寸前紫宮くん前から入室、教室の隅で深く会釈。「こんなこっちゃあいいないねエ。サントスさんに聞いてみよう」って帰っちゃった。二時間目は体育。男子にスポット、西野くん「静かにしてちよんまげ」、直後「こんばんわ、鼻血です。」と言ひ鼻の穴から一筋の血。なおかつうるさい電柱、あつけない、糸瀬だつ。H先生「ばかんたれ」の言葉と共に気合の入った独特の愛で授業が終わる。H・R。松本先生は紫のくつ下をはいた我らの担任。途中、とおるが鼻にアイスホッケーマスクをして笑いながら登校。続いて、マンチョと雄二が重役出勤。そこで一言「ラッキー、チャチャチャウーッ」、阿部知佳軍団（知佳・圭子・真紀江・祐子・千晶）ブラシを片手にトイレへかけ込む。三時間目始まる。が、数学のM先生の姿は見えない。つかの間の天国。プラムとパラダイス布施とホステス山田が、みかんと大学芋をほおぼっている。……と、そこへM先生が来る。礼がすむと藤本君がいきなり黒板消し係に变身。おやつ？ 先生をにらんでる

奴がいる。うーん、憎悪の固まり？ ケンカをふっかけているが先生は気付かない。あきらめろって、小沢。もうチャイムがなるゾ。ホラ、小室も早弁の用意をしてる。次はN先生の現国。先生てばチャイムが鳴る前に教室にあらわれ、みんなをあせらす。N先生のお気に入りは何と言っても大ツボ君。「大淫またノートとってねーな」とかなんとかいろいろおこつたり。続くパーキー山口、先生にほめられ「へへ、どーもっ」。榎さん、先生からの卓球の挑戦試合受ける。うっ、四時間目がやっと終る。弁当タイムだ。椎名君がホットな茶を口に含みいかにも幸せそう。坂本、鵜飼のテニスボーイズ、校庭でゆーがにプレイ。宇田川、酒井、久保田、寿山チームは量の少ないお弁当をあじわいずっと食べている。石飛、田中達は葉百仁さんに教えを説かれている。克明と高塚が教室で柔道の特訓中、五時間目突入、化学のY先生がやって来た。難題を一早く解くマスター、正解率は極めて低い。田端君のビックヘッドは福隅を怒らせる。やべべべ矢部ちゃん、「やべーよ、あつてるかなあ」ってマスターとは反対で、みんなの信頼を得ている。福味が鼻をかんて古典スタート。松本先生が和田さんをお説いている。耕三と志村がささやきあっていると「あー」と奈穂叫ぶ。小枝、いきなりさされて困っていると、チャイムが小枝に天の助け。学活が終わると、光の速さで佐々木君、部活に消える。結局、いつものごとく一日中席が一つあいていた。藤沢文学は今日も来なかった。ではラストに担任の一言「おい、てめーら、静かにしろっ!!」

1年B組

玄関を入り、その脇の階段をトントンと昇り左に曲がって突き当たりを右に行き、そこから数えて二番目の教室の上を見ると、「1-B」机・イス・ロッカー・掃除箱・教壇付で、窓を開ければ校庭が見えるくくというどこにでもありそうな平凡な教室に生徒五十一人、先生二人が詰め込まれています。

まず担任の先生は、数学の小野先生。独身で〇〇歳です。授業ではその若さにモノをいわせ、分かり易く説明してくれて非常に（？）助かります。一言でいうと大変、「まじめな」先生であります。

次に副担任で生物の中平先生。見た感じではかなりお年を召しておられるようですが、その真相は不明です。ですが生物室に入ると先生の、「生物に対する熱意」が我々に感じとられ、みんな驚きます。又、授業の合い間にちよこつと聞ける先生の体験談も面白くて、先生に学ぶところもあり感動することもあります。

そして五十一人の我々。入学して間もない頃には何となくクラスがギクシャクしていましたが、文化祭の劇「ロッキ」で見事、一つにまとまりました。この劇を創るにあたってはいろいろとゴタゴタがあり、準備が本格化したのは二学期に入ってからでした。ですが、「短期集中型」の我々はその後連日の居残りと苦労苦難苦悶苦心苦痛の連続で

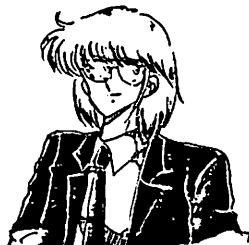
成功を収めました。いざとなれば一つにまとまるのもB組の特徴です。

普段の日のB組は平和です。一時間目まじめに勉強、二時間目せつせつ勉強、三時間目バリバリ勉強、四時間目カリカリ勉強、五時間目元気に勉強、六時間目まだまだ勉強、などという様子、のほろほろありません。その点で先生は心配しておられるみたいで、いろいろと苦勞をかけさせています。

強烈なパワーを内に秘めているが、少し控え目なところがあつて個性的。訳の分からない部分と明るさがミックスされている、いわば奥の深いクラスであると私の独断と偏見で解釈してしまいましたが、あなたの見解はどうでしょう？

P・S まとまりの全くつかない文章になったことは勘弁してください。

(文責 中野 匡)



1年C組

昼下がりの教室で

私たち一年C組は、校庭に面した南棟の三階のすみっこにあります。この陽の当たるすみ部屋は、区域的に隔離され、ぽかぽかと温室のようになっていて、ここで生活する五十人はすっかりのん気に育ってしまいました。

心のやさしい人が多いというのでしょうか、悪く言えば人が良すぎるというこのクラスは、朝から平和な雰囲気包まれています。静かな朝です。しかし、それは眠ったまま登校してしまつたからにすぎません。午前中の授業も静かです。しかし、それもそのまま寝込んでいるだけの話なのです。それでも、三時間目くらいになると、少し元気になるてきます。ぼつぼつ目を覚まし出したのですね。——な

ぜって、もちろん、早弁をしなきゃならないからです。昼休みはみんなとても元気です。陽はさんさんと降り注ぎ出しました。——ここでクラスの人を何人か紹介しようと思います。

昼休みの過ごし方はさまざまですが、ずっと壁ぎわでトランプをしてる人達があります。彼らはいつしか「トランプ軍団」と名をもらいました。

女子はお弁当の時は三つ四つグループに分かれています。が、ふだんはあまりグループは関係なく、特に目立つた人もない感じ

です。平和の象徴、鳩の鳴き声のようなあだ名をもらつてしま

った男がいます。彼のほほえみは心をなごませ、平和を感じさせます。彼はたいてい寝ています。人は誰も寝起きはあんな平和な顔をしてるものなかもしれません。しかし、彼の悲しみは、人の良すぎる性格のため、使いばしりに使われやすいということです……。

この他に、文化祭以来、乞食の奥さん役がのり移って離れない男や、みょう字が難しくて必ず一回じゃ読んでもらえない女など、いろんな人がいます。

さて、こんな人達が思い思い過ごした昼休みも終わると、五・六時間目が始まりますが、ぽかぽかと陽だまりになつたこの時間はやっぱりみんな寝ています。静かな午後です。放課後は、それぞれクラブに出て行きますが、「帰宅部」が多いのもこのクラスの特徴です。

——こんな一日が、三階のすみで毎日繰り返されています。私が最近心配なのは、こんな平和な環境でのん気に育つてしまつた私たちは、来年からちゃんと生き残つてゆけるのか……と、いうことです。

今日も陽が降り注ぐ……ある昼下りの教室でした。

(文責 ル・クール委員)



1年D組

我が1年D組に 乾ばいノ

一Dは、明るく楽しいクラスです。それがモットーでもありますから。ただ、もう一つの「けじめ」というのは、時々、どこかへ飛んでいつてしまつて、姿を消してしまうようです☆気をつけましょうね。それから、このクラスには、夢をもっている人が、多いようです。例えば、K君。将来は、エライ天文学者か!? 今、話題になっているあのハレー彗星について、いろいろ調べて発表してくれました。上條先生も驚いていました。他にも、「私ね、プロ野球のうぐいす嬢やりたいんだ」なんて言っている女の子もいます。夢をもつのは良いことです。と担任の角先生もおっしゃってました。新聞の記事を、わざわざコピーして持ってきて、熱心に話しをして下さる女の先生でして「角」をスミではなく、ツノと読む人も……いないと思いますけど、



ど、でも本当によくお説教を下されています。しかし、これも私たち四十九人の生徒のためを思つてのことなのです。先生の「やりがい」大きくなるか、ならないか、それは私達しだいですが。これからはがんばりましょうね。それから、話は変わりますが、一Dが一つになったのは、九月のあの輝松祭の準備も終わりに近づいた頃でした。今となつてはいふんたつかに思われますが、一生懸命がんばつて前日、やっとリハーサルを終えた瞬間、思わず盛大な拍手と歓声で教室をはりきけそうにしてしまいました。どこのクラスでも、そうなのかもしれません。けれど、あのときの感動は、忘れられないものとしてみんなの心の中に残っています。こんな素敵なクラスにジュースで

「乾ばいノ」しましょうよ。

(文責 ル・クール委員)



1年E組

さて、我々が一Eは、いろいろな人が集まっています。いろいろといつても、とにかくいろいろで、ここに書ききれない(!!)のが残念なくらいですノ

入学当時の自己紹介の時からうすうす分かつてはいたものの、実際の目の当たりにしてみると……ガーン!! ショックは大きいのです。

そうです。我々がクラス一E! の恐しさを一番ひしひしと感じたのは、輝松祭です。過去を振りかえつてのことなので恐縮ですが、あれは、我ら一Eのメンバーではなくてはできなかったことなのです。二本立てという驚威の構成しかも、あえてダブルキャストを取り入れ、昔話を書き変え、新しく発展させてしまいました。そして!! いちばん強く我ら一Eの恐しいところは俳優と声優を分けてしまったこと。こんな発想は我ら一Eにしかうかばないものです。……しかし、この素晴らしい発想の為誰かが仕事を兼ねなければならなくなったのは確かです。欠員につぐ欠員で、あやうく上演不可能となるところでしたが、我々はそれを克服したのです! 信じられない程のフォロの連続のうち、終わってしまったのでした。

ただうわべだけを聞いているみなさんは、何とも思わないかもしれません。でも、よく読んでみて下さい。

並の人で「俳優と声優を分ける」、これを劇に用いると考

えますか? やっぱすごいのです。欠員だらけで、臨時に「主役」を抜つてきしそれを「成功させた」のです。

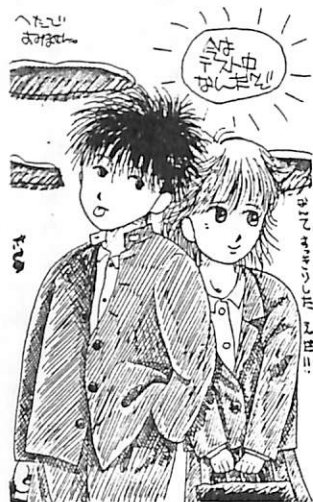
選んだ人の目、選ばれた人の度胸。衣装ではない衣装で舞台にあがらせた人のセンスと演出力。すごいと思いませんか?

「奇抜と天才は紙一重」という言葉もつくれそうなクラスです。

こんなように奇才を発揮する人が多く、その割には適当にまともなれるし、まあいいクラスのひとつに入ると自負できるし、これから先も、一体どのような所でそれらの奇才が発現するか心配(!!)で、かつ、どんな面白いことが体験できるかが楽しみなクラスです。

——客観的に述べられなかったことを反省します——

(文責 ル・クール委員)



1年F組

僕たち一年F組の人々は、休み時間はもちろん、授業中でもおかまいなしによくしゃべる、よいにつけ悪いにつけそれはそれは活気のあるクラスです。先生方も大分手を焼いておられるようで、

「うるせーな静かにしろよ。」

「おーいうるさいなー。」

「私語が聞こえる！ もっとはじめをつける。」

「うるさいですねーあーたがたももっと静かにできないんですか。」

と言ったような注意のお言葉が授業中に一回は必ず出てきます。このクラスのために声が出なくなってしまうという先生もいます。とにかく、毎日お祭り騒ぎをしているようなクラスです。まるで松高の悪い面を一手に引き上げているような感じがします。

でも、みんながよくしゃべるだけにクラスの雰囲気は明るく、お調子者が多いのでノリはいいほうです。

文化祭では、「日本は今」という大上段にかまえた展示をやったけど、ウケは悪く、クラス内からも「つまらん」「暗い」「まじめ」「サイテー」などの声が聞かれました。しかし、やっぱり見てくれる人はいるもんで、校長先生からはおほめの言葉をいただき、ついでに特別賞なんてのももらいました。喜んだ人ははつきりいつていないかもしれない。や

2年A組

うーん。二年A組の紹介……。本当なら同じル・クール委員の他の誰かに書かせるんだろうけど、うちのクラスにはあたし一人しか委員がないんだい！ まあ、下手な文だけ読んで下さい。あたしの独断と偏見だけけど。

我が二年A組は、勉強面では最近気がついた事なのですが、男子と女子の差が大きいー試験の平均点なんか、どの教科でも、必ず女子の方が平均点が高くて、しかもその差は十何点とか二十点近くある教科もあるんだよね。今は二学期の中間考査が終わったばかりなのですが、テストを返す先生方が異口同音仰る言葉は「このクラスはとて女子が良くできて、男女の差がものすごい。」そうなんです。これがうちのクラスの特徴の一つ。優秀な女の子が沢山いらっしゃるんです……。肩身がせまいなあ……。

他にうちのクラスの特徴といえば、遅刻がやたらと多いんだよね。誰も遅刻しなかった日なんてないんじゃないかと思われる位。いやあ、もうなれちゃったけど……。特に遅刻がひどい日は、担任の加藤先生が注意して下さいます。あつ、申しおくれました、二年A組の担任は加藤巧吉先生です。物理を教えてもらっています。学活の時なんか、おしゃべりがすごくて、先生が注意してもまたしゃべりだして、いつも困っているのです。

先生はA組をどういうクラスだと思っているかというところ

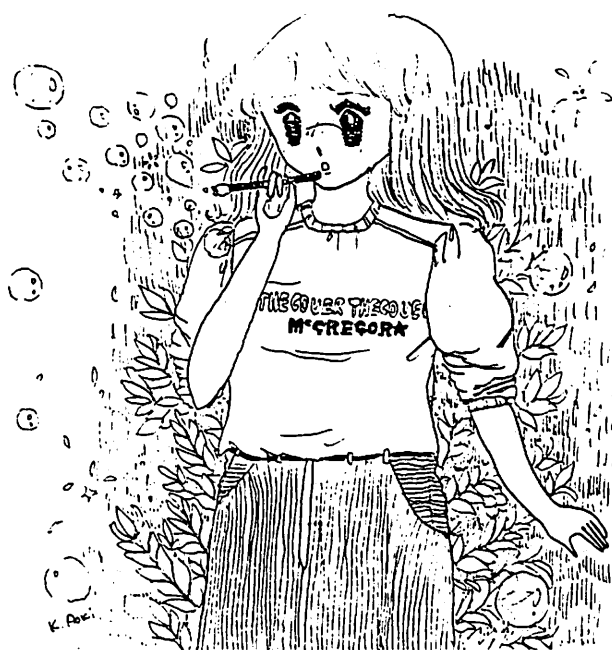
ればできるんだなあと感じたのはどうやら担任の奥谷先生だけのようでした。

とにかく、軽く明るく活気があってとつてもうるさく勉強が強い、というのが一Fです。今日も奥谷先生は、

「静かにして！」

と、騒いでいるクラスをしずめるのに懸命です。

(文責 中原健太郎)



「授業中はうるさいけど、まとまってるのかまとまってないのかわからないクラス。僕がうけもった中では比較的そんなにわるくないクラスだね。」

先生ありがとうございます。こわい時もあるけど、普段はめんどろみが良いと思うし、とてもおちやめな先生です。個人的には結構やさしい先生だと思います。

体育祭を振りかえってみると、うちのクラスは足の速い人が多いのでしょうか、なんと全員リレーで見事一位、男女混合リレーでも一位になったんです！ それからハンドボール投げでも佐藤くんが総合優勝したりして、とにかくA組は強かったのさ。すごいでしょ。

輝松祭では、「ある終業式」という映画を上映しました。みんな、暑い夏休みの間もがんばって学校に来て、二学期になってもほとんど毎日のように撮影をやって、そのかゝいあつて当日二日間とも満員御礼でした。お客さんたちもみんな「おもしろかったよ。」って言ってくれました。

まあ、とにかく無事成功して、よかったねつ。

なんかいつもはそれぞればらばらな感じもするけど、いざとなったら、団結してものすごい力を発揮しちゃうAぐみを、みなさんよろしく。

ここまで読んでくれたみなさん、ありがとうございます！

Aぐみのみなさん、へたくそな文章でごめんねっ！

(文責 館野菜々子)

2年B組

みなさん！ おぼえてますか？ おぼえてますか？ も
 っちゃんおぼえてるでしょう！ 私たちの文化祭の出し物
 ！！ そうです、ミステリー・ゾーンとは私達の事……いや、
 私達の出し物……？ みんな入ってくれましたか？ 入っ
 てくれましたね……？ おかげ様で当日二日ともお客様が
 これでもか！ とでも言う様に入ってくれちゃって、私達
 は大いそがしでした。あのセット……よく見ればつぎはぎ
 だらけで、ききたいセットではありませんが、あれこそ私
 達二年B組のすべてを物語ってくれてる様な気がします。
 夏休みからダンボール集めに追われ、手を真っ黒にしなが
 らの壁づくり……。ほんとに出来上った時は涙が出てしま
 いそうでした。特に前日と当日の朝！ あの時はじめてみ
 んなが一つになったという感じがしました……。その努力
 の成果が現れ、校長先生からは立派な賞状をいただいて、
 今はクラスの壁でひときわ美しく目立っております。
 担任は井上先生で、副担任は水谷先生……お二人とも女性
 という……なごやかな（？）クラスです。あらためてうちの
 クラスの特色は……と言うほどのことはありませんけど、
 文化祭の事はきつとみんなの心に残ってゆくと思います。
 三年になってもこのクラスは変わらないのだから、これ
 から全員がもっと仲良くなって、いい思い出をつくってゆ
 ければいいと思います。

2年C組

上條氏は生物部の顧問であるとともに、49匹の「やんば
 るくいなど たけとりのおきな」という生物の飼主で
 もあった。上條氏は49匹の「やんばるくいなど たけと
 りのおきな」に学校へいかせ、自ら教鞭をとることはしな
 かったが、10時半頃と3時頃、教室にきては、49匹の面倒
 をみているのであった。しかし、はつきりいつて49匹の「や
 んばるくいなど たけとりのおきな」たちは、上條氏の
 いうことをきかない、具体的にいうと、遅刻が多い、さば
 りもする、よくしゃべる、しかし授業中よくしゃべるわり
 には成績が良い、というのが49匹の「やんばるくいなど
 たけとりのおきな」（あーめんど）の定評である。
 さて そんなある日、

「上條先生、大変です。49匹の「やんばるくいなど た
 けとりのおきな」が……」
 といったのは上條氏とともに49匹の「やんばるくいな
 ど たけとりのおきな」を育てている鶴田女史であった。
 「なに？ どうした？」
 「今、入った連絡によりますと、何者かが「やんばるくい
 など たけとりのおきな」の教室に時限爆弾をしかけた
 そうです！！！！」
 「なんだって？」

それぞれのクラスが、それぞれの良さを持っていると思
 うし、私達二年B組にも、二年B組なりの良さっていうの
 がたくさんあると思ってます。……クラス内で、大きないざ
 こざつてないし、いやなイジメもない。みんな明るいし、
 性格的にはサッパリした人が割と多いんじゃないかなあ。
 なんかホメッぱなしみたいだけど、細かい点をのぞいてけ
 ば、ほんと、けっこうなクラスだと思う。先生方にも「B
 組はいい」って言われるのが割と多いんだ、なぜか。頭の
 方も、みんな隠れて勉強してるみたい（？）で、テストの
 平均なんて、けっこう高かったりして……それに泣いてる
 子も少なくないけど……。
 いろいろ言ったけど、我が二年B組、これだけは言える
 と思う。けつして「暗い」クラスじゃない！
 だからみんな……二年B組をこれからもヨロシク！
 （文責 ル・クール委員）



「しかも、49匹を避難させると自動的に爆発するそうです。
 私達に残された手段は、時限爆弾をみつけることだけです。」
 「ああ、どうしたのだ。僕が育てた49匹の「やんばるく
 いなど たけとりのおきな」が……いつもかわいがってい
 た「やんばるくいなど たけとりのおきな」が……どうし
 てくれよう僕の「やんばるくいなど たけとりのおきな」
 くやしいよう！」
 「ええーい、いいかげんになさい！ とにかく教室へ！」
 と教室へいくと49匹の「やんばるくいなど たけとりの
 おきな」は動揺しているというよりは、避んでいるよう
 にみえた。49匹の「やんばるくいなど たけとりのおき
 な」は、自分たちの危機を身にもって感じながら、なおも
 って避んでいた。いい根性だ。
 「爆発の時間まで、あと15秒！！！！」
 15 14 13 12 11 10 9 8 7 6 5 4
 …… 49匹の「やんばるくいなど たけとりのおきな」
 と上條氏、鶴田女史の顔はだんだん青ざめていった。
 3 …… 2 …… 1 ……

ぜ ろ っ
 「ばんっ！！ 祝ル・クール掲載クラス紹介」
 祝砲であった。仕掛人は わたしです。
 めでたし めでたし
 （文責 ル・クール委員）

2年D組

『磯貝先生率いる四十九人の仲間達』

こんばんは、最近夜は寒いですね。みなさんカゼなどひいていませんか？

さて、これから二年D組の実態をお知らせしましょう。

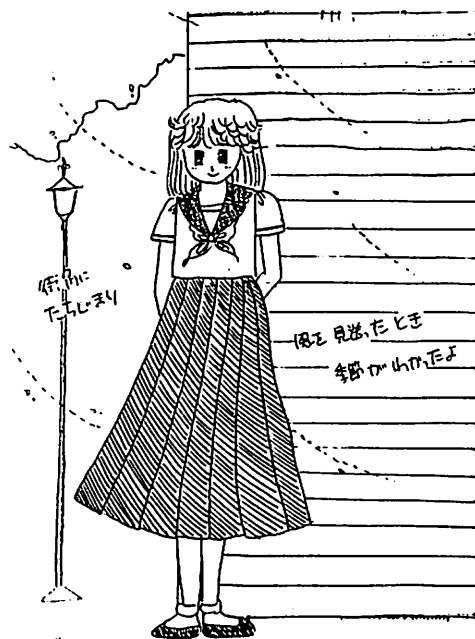
我二年D組は、とつても団結しているんですヨ。その例として、見てもらえましたか？ 今年の文化祭の2Dの推理劇。とつてもあわただしい劇だったと評判だったようです。題名は『天国からの手紙』男女混合の六人組がくりひろげる、名探偵ぶり。笑いあり、アドリブあり、真つ暗闇あり、とても本人達は楽しんでやっております。あんまり、外部の人達には人気がなかったと思うけど、ほとんど身内うけ。あの時の雰囲気のまま、うちのクラスは現在進行形です。

みなさん。我クラスの担任を見て下さい。とても女性とは思えないような行動力のよさ。とても？歳とは思えないようなあの美声。ちよつと音量はいっぱいですが……。

そんな先生と、毎日一緒に過ごしているんですもん、あなた……。並の元気の良さじゃついていけませんよ。でしょ。という訳で、我二年D組は学校一、めだつ元気いっぱいこのクラスとなるわけです。うそだと思ふなら一度のぞいて見て下さい。耳栓の用意を忘れずに。

おわり

(文責 ル・クール委員)



2年E組

橋本雅と四十九人の生徒達

2年E組、議長の藤澤裕毅です。よろしく！

うちのクラスの副議長は、山口雅史君です。彼は、どういふ人かといえば、一言でいうと、変な奴！です。タレントに例えるとワムのアンドリュウです。でも、彼はうちのクラスに欠くことができない存在です。文化祭の時も、すつごく盛り上げてくれました。

次に、うちのクラスで欠くことのできない貴重な人物を紹介しましょう。

最初に紹介するのはみんなのアイドル、松尾朋英君です。彼は、とにかくよくボケます。本当によく大ボケをしてくれるのです。僕はなにもせず、彼を見ているだけで笑えてしまいます。彼は、遠く横浜から毎日学校に通っているため(？)一日二時間以上寝ています。しかも、彼は熟睡するので、ちよつとやそつとのことでは目覚めません。

次に紹介するのは、バレー部の名(？)プレーヤー伊藤嘉英君です。彼は、一見、全く普通の人に見える。しかし、いったん性格が変わると「エーッ！」という程変な奴になります。山口君なんて、比べようがないくらい変な奴！なのです。彼の特技はゴーゴードダンスです。音楽を自分で歌いながら、踊っています。

男子ばかり紹介したので、女子も紹介しましょう。うちのクラスの子で紹介しなければならないのは、バ

レー部のエースアタッカー、文化委員の草島康子さんです。彼女はとにかく、声の大きい人です。教室の一番後ろの席で笑うと、一番前の僕は、顔をみなくとも、彼女だつてすぐわかります。そして、とつてもおもしろい人です。さて、最後に男子をもう一人、紹介しておきます。その人の名前は……井浦康吉君です。彼は、普通に過ごしていても「ま」がぬけてるので、彼をみてとても楽しく過ごさせてもらっています。

ところで、うちのクラスの担任を紹介するのを忘れてました。

うちのクラスの担任は、橋本雅先生です。先生は、時々とつともない大ボケをしますが普段は普通の教師をしています。先生のうけもつクラスは、成績が悪いというジンクス通りうちのクラスの成績は……です。

さて、ここにあげた人以外にうちのクラスには貴重な人材がたくさんいます。ぜひ、みたい！ っと思う人は、二階の二-Eの教室までいらして下さい。うちのクラスがどういふクラスかは、登場した人達をみて想像して下さい。

(文責 藤澤裕毅)



2年F組

私たちのクラス二年F組を紹介します。

えーと、このクラスは、担任の先生が河合先生です。このクラスの特徴といえば、「遅刻」がやや多く、成績が……ちよつと……。テストを返されると諸先生方に「平均点が最低」といわれ……。でも良いクラスです。

例えば、体育祭の時だってみんな一生懸命やっています。（赤組は勝ちました。）団結力はないことはありません。文化祭の時だって、まとまって練習していたようです。みんな、ほんとうにがんばっていました。団結力がだんだん増してきたと思います。

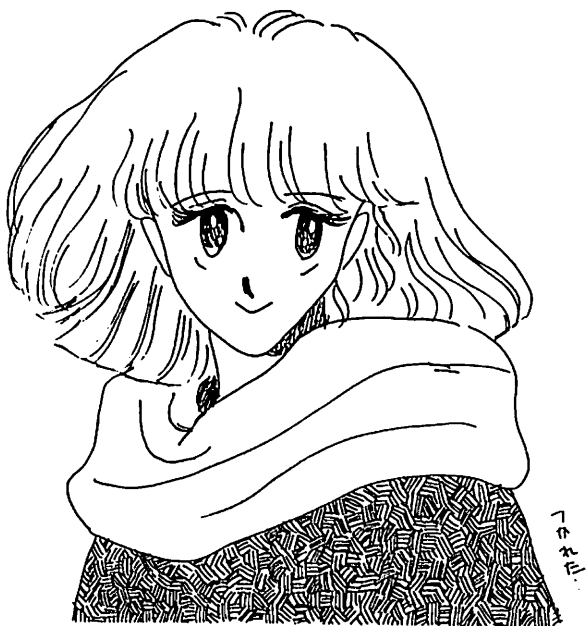
でも普通のクラスです。それから、担任の河合先生について紹介します。河合先生は、とても人の良いやさしい先生です。だから成績が悪かったり、遅刻が多いとすごく心配なさっているようです。（さつきも書きましたが、我がクラスは遅刻が多く、成績が今ひとつなのです。）

きつとこれからは、もつと良くなると思います。これから行く修学旅行ではきつとクラスがまとまると思います。

でも……私自身、クラスのことをわかってなくて書いてある所もありますので……。クラスのみなさん、適当なことを書いてしまつて、ごめんなさい。ちつとも、おもしろみのないクラス紹介で……。ユニークなものつて書けなくて……平凡です。

最後になりますが……また書きますが……2年F組は、きつと、これから良くなると思います。

（文責 ル・クール委員）



3年A組

あら、まあ お久しぶりつ。A組です。覚えてらつしやいます——？ 去年の文化祭で、ホラ お化け屋敷やつて、展示部門の一位に輝いたもと2Aの3Aデス。まあ一年の方は御存知ないでしょうね。でもつ 今年の文化祭のミュージカル「サウンド オブ ミュージック」あれ、見てくれたでしょ、ねつ あれですよ——、あれがウワサの3Aなのさつ。で、今年も 優秀賞 頂きました。ありがたいや。なんだかんだいっても 結局 このミュージカルがすべてを物語ってるんじゃないかな——。3Aのすべてをね。いーとも悪いとも、ゼーんぶ。——むつかしいこといなくてもさ、あのミュージカル みてもらえたらわかつてもらえと思うな——。クラス紹介なんて書かなくてもネ。うーん、文章にするつてのはやつぱりムズカシイヨ——。ん——でも。そうだなー、ナンダカンダ言つても 結局 最後にはガンバっちゃうクラスつてとこかな。しかし、私は評論家なんかではありませんからね。勝手に一人でクラスのコト 分析できませんよ。責任持てませんもん。と、いつつ 仕事ですから 続けますね。仕事ですもん。あつ でもつ 結論を先に書きやつたんだ。わ—— どーしよ—— あとが続かないではないかつ。あーん 困つたよ—— えーん しかたない。最後の手段をとるか……。うっこれだけは使いたくなかつたよお。

ミュージカル「サウンド オブ ミュージック」を

ごらんになったすべての方に送る——

サウンド オブ

ミュージックこぼれ話

アドリブがさえた本番！ 君は、いくつわかつたかな？ セリフを忘れそうになつた、もしくは 忘れた時、みんなでつきあいつつアドリブつてたのさ。ああ 美しきかな 友情愛！ とくにNICHANには盛大な拍手を！！

大佐がお客様を部屋に案内させようと執事（マックス）をよんだけど 出てこなかつたでしょ。マックス君はあの時まだ 舞台の裏手ですつたもんだやつてたのだ。この時は大佐が「執事がいないようなので……」つて気を利かしてくれたのさ めでたし めでたし。

とゆーよーに、数々のエピソードを生んだ「サウンド オブ ミュージック」 まだまだいっぱいエピソードがあるんだけど、余白が足りなくなつてきやつたから。おまけのつもりで書いてたのにね。だから、知りたい人は知つてる人に聞いてね。じゃあね。さよーならあ。おわり。

（文責 ル・クール委員）

3年B組

三―Bであります。去年までは「二―G」というまるでファームの選手のような生活を営んでおりましたが、今年からついに念願であったとなり他のクラスがある！という朝陽の当たる家のようなすばらしい環境をもちえたあの三年B組でございます。

いつきなり「クラス紹介」の締切は火曜日ですよ。火曜日には印刷屋さんがあるんだから。」と、三日程前に担当の先生に言われてしまい、頭をかかえこんだまま悩んでいたのだが、その時電光石火のごとく閃いたアイデアが、去年のル・クールを参考にしようというものであった。そして自分の考えのすばらしさに感動しながらル・クール第三十三号の二―Gを開いてみたところ、ああ、いきなり「寿限無」のバクリであったのだ。役に立たないようく。

と、脈絡のないどうしようもない話はここまでにして、これから先はまじめに書こう。

さて今年、改名して生まれかわった三―Bです。今年度は去年我がクラスの担任であった寺本先生が転勤なさってしまいシーズンオフの段階から荒れ模様であったのですが結局のところ担任は頭からいつもフラッシュをはなっている、ちよつと英語の発音が聞き取り難い小山成雄先生となり、そしていつのまにか副担も目下先生から樋口先生に変わ

っております。これには最初のうち数々のブーイングがありました。それがそれも今では消えてしまいました。

さて、うちのクラスの自慢の種は長いホーム・ルームであります。S・H・Rでも10分位の時間を取って念入りに行うため、誰かが「ロツカーへ教科書を取りにいふ時間がない。」とか「あれ位念入りに授業をやってくればいいのに。」ということをつたつたとかという話がある程なのです。小山先生はそこで「うちのクラスはいつも学年会でうるさいだのという意見が出て困る。まあ、私もそう思うが。Y!。」等と言っておりますが、その辺のことを含め議長くん聞いてみたところ、「まあ、うるさいかもだけど、そんなでもない。ただこのクラスは今いち緊張感というものに欠けてるし、文化祭とか見てもわかるけど、結局は皆やったんだけど、初めから一生懸命やる人とそうでない人の差が激しいと思うの。まあ協調性がな」ということかな。いい所は冷静というか個々がしつかりしてる。それからS・H・Rが長いことかな(笑)」ということでした。



あと残りも三ヶ月。そしてシーズンオフ最大の話題は何人大学へはいれるか、ということ。「さあ、受験生達よ、大学にはいれるように頑張ろう!。」と、いう訳で三―Bでした。

(文責 ル・クール委員)

3年C組

わが3年C組は一階南棟の一番奥にあつてなんてことはこの際どーでもいい。今回クラス紹介を書くことになったわけだが何を書いたらいいのかわからない。普通だと、みんな明るく楽しいクラスです……なんて書くところだろうがこのクラスには「明るさ」というか「活気」がないのである。一人一人はそんな風ではないのだがクラス全体の行動となると、とたんにおとなしくなってしまうのである。特に文化祭の時などは、ほとんど不参加寸前のところまでいきかけたくらいである。このようなクラスの性格は多分に担任である松永先生(下図参照のこと)の影響をうけていると私は思う。

このクラスの特長としても一つあげるとクラス全員がめつたにそろわないということであろう。特にS・H・Rの時間に全員がそろっているなんてことは年に2・3度だろう。必ず誰かがいない。中でも五十嵐かなしぱり裕雄君はこの九月に遅刻率五割六分二厘というバースもびつくりの月間MVPに輝いた。生徒手帳はすでにハンコでいっぱいである。

とまあどうでもいいことばかり書いてきたけども、それぞれいろんな個性を持った人間が集まった、つかみどころのないクラス、それが3年C組なのであります。

(文責 ル・クール委員)



3年D組

D組といえど、と聞えば、まず誰もが答える事は、まとものなんではないのだからもう少し仲が良くてもよさそうなることも手伝ってか、昼休みの三Dの教室にはすきま風が吹き抜けています。そんなことから、体育祭といい、文化祭といい、なかなか皆乗ってきません。確かにそう見えます。ところが、直前になって力を発揮するのもD組なのです。一度火がつくと、皆で一丸となって頑張るのです。今年の



輝松祭だつて、三Dの「峠の茶店」のあの手のこんだセット（私は絶対賞をもらうに値すると自負しておりました。残念ながらダメでしたけど）。あのセットだつて、全部前日になってはじめて皆で作ったものなんです。集団の力というのはバカにできないなあ、なんて感動しました。

さて、D組の普段の生

活は。といいますと、さすがに三年生の貫録あつて、授業中はとてもマジメで静かです。某英語の先生に、「このクラスは静かでなんだか怖い。」うだ。」といわれた事がありません。目がキラリと輝くほど、授業に熱中していたのでしょうか。その辺は疑問です。

担任の横山先生も、一見ただのうるさいオバサンなのですが、いやあれでなかなか、さっぱりして話のわかるかわい

い奥様先生なのです。とにかく、先生も生徒も、かめばかむほど味のあるクラス、白米のごはんのようなクラスなのです。

D組バンザイ！
(文責 ル・クール委員)

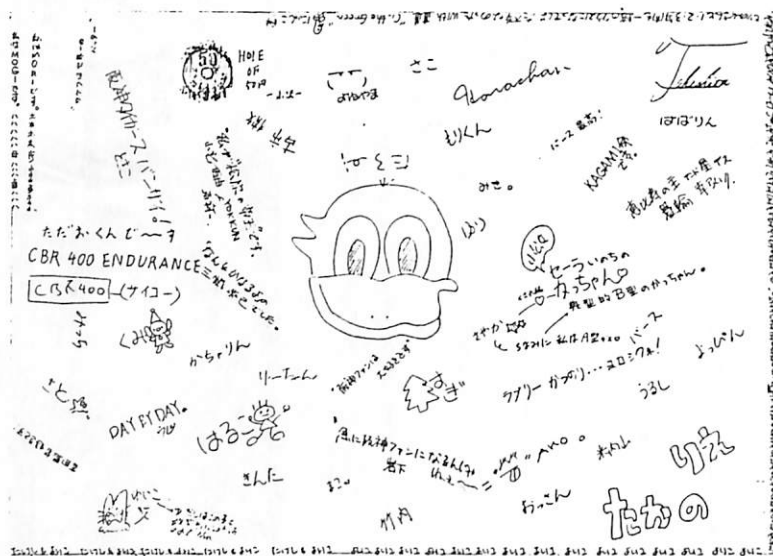


3年E組

佐野ちゃんのクラス!!



1985年5月13日 東京都立松原高等学校三年遠足 東京ディズニーランド



(文責 ル・クール委員)

3年F組

クラス換えをしてから二年が経とうとしている。二年前と比較してみると、確かにクラスらしいことはしてきているが、同じ様なところもある。そう、オレ達には「まとまり」がないのだ。オレ達最後の文化祭の出しものを決めるのにも、意見がまとまらないなら未しも、全く出ないのがある。オレはこんな状態が不思議に思えた。隣のクラスがうらやましく思われることさえあった。

案の定、三Fの劇は内輪のもり上がりで終わってしまった。しかしオレはこの最後の文化祭で三Fのすばらしいところを発見した。それは、三F一人一人がとても個性的なことだった。ある教師に言わせると「変わったやつ」の多いクラスということになるが、「まとまり」がないように見えたのは、それぞれの個性の対立の現れだったのかもしれない。大事なのはクラスではなく、その中にいる人間一人一人なのだ。形だけの「まとまり」なんて求めない。いや求めたくない。

「人間臭いやつ」の集合体三F。しかしこれも終わりに近づいている。これからそれぞれの環境へ出てゆくのである。そこで時が経ち、高校時代はまぼろしに染まってゆくだろう。しかし彼が何かで挫折し、何か心の寄りどころを見つめようとする時、もう遠くはなれてしまったと思ってしまうものが鮮明に甦って来る。その時思い出されるものは、

何といっても三Fの面々だろう。高校生活の大半をいっしょに過ごしたオレ達は、「まとまり」よりも大きなものを得ているのである。その面々にはげまされ、彼はきつと立ち直るだろう。なぜなら彼は、三Fの仲間だから。

「三年間」というものが、とても短かったように思える。そして明日卒業してゆく。入口と出口のようなものがある。物事には、必ず入口と出口がなくてはならない。だが、オレ達とは、違う出口を求めてしまった者もいる。お互いと自分が反発し合ってあわなかったのかもしれない。

未来へのあこがれを抱いて入学した頃は、何も恐いものはなかった。だが、めぐり来る季節が花の色を変え、三年間でいくつもの出会いがオレ達を変えていった時、川の流れて浮かべた木の葉がそれぞれの岸にたどり着くように、オレ達は大学、短大、専門学校、社会へと飛びたつてゆく。「物事には必ず入口と出口がなくてはならない。」

三Fは個性派集団。それぞれの個性がぶつかり合い、共に成長してゆくクラス。これから先、拳を振りあげ、青春時代を過ごし、社会を担い、時代を作っていく革命的世代なのだから。

(文責 ル・クール委員)

3年G組

みなさん、3年G組というところを思い浮かべますか。一クラスだけ孤立しているクラス？ 保健室のとなり？

.....それとも.....暗い廊下？

そんな事のまえに、3-Gの教室がどこにあるのかさえないからない人もいいるのでは.....!? と思ってしまうほどヘンピな所に1つだけポツンとあるのです。

では、そんな教室で、毎日生活している生徒も暗いのです？ なんて思われては困ります。

いえいえ、そんな事はありません。

まず、クラスの位置の利点は、まず第一に朝っぱらからうだうだと、階段を登らずにすむし、遅刻すれすれでも、かけ込めば、なんとか間に合うし、春には、中庭には美しい花々が咲きみだれ、窓の外を見ると、その花々とテニスコートが美しい調和をなして、視界にとび込んできます。そんな環境で「すくすく」と育ったのですから、もちろん3-Gの生徒も言うことなし.....。遅刻もなければ、勉強にも励んでいて、心もおおらか♡ 松高の鑑、といわれてみたい、というのが現実ですが、今のところ、期待にそえないようです。

ですが、担任の赤尾先生は、おもしろい話で有名な!! 一流の先生です。とにかく、遅刻やさぼりに対して非常に口うるさくて、怠け者の私はいつも、お尻をたたかれて、

エッコーラ生活しています。

つまり、三流生徒と一流先生の組み合わせで、二流程度に落ち着ける、というところでしょうか。

とにかく、二、三人の生徒に意見を聞いてみました。

A君「オレよーこのまえ道でサイフ拾って、ヤッターって思ったら三円しか入ってないでやんの! チェ。」

Bさん「赤尾先生や松高とも今年でお別れするので、とてもさびしいなあ」

Cさん「今ね、アダムス（アーティスト）が日本に来てコンサート開いているのよ。キャー!」

とのことでした。

とにかく、こんな仲間が集まって、三流だろうと、何だろうと、仲むつまじく、くらししています。

最後に.....赤尾先生いろいろありがとうございました。

(文責 ル・クール委員)



寄稿



留学体験記

七月に、一年間のアメリカ留学より帰国し、二年C組に仲間入りしたもと二F（現三F）の河崎丹美さんが「留学体験記」を「ル・クール」に寄せてくれました。二Cの人は直接話が聞けたのでしようが、その他の人も、ぜひ聞きたいですね。めったに経験することが出来ない貴重な体験をしたわけで、それは、一度失えば永遠にもどらない青春の斬跡でもあります。

アメリカ留学感想記

二年C組 河崎 丹美

長いようであつというまであつた留学。今は自分が留学していたなんて信じられないくらいだ。帰国してしばらくは、友達にいろいろアメリカについて聞かれたけれども、一番困った質問は、「アメリカ、どうだった？」ということであつた。結局は「よかったよ」と答える。本当はわからなかったのだけれど。あの時は、まだアメリカから帰ってきたばかりで、アメリカが全然つかしくなかった。けれどもやはり、時がたつと、日本での生活のマンネリに気づきつまらなくなり、アメリカでの生活が思いだされてくる。そして今、アメリカでの思い出すべてが美化されつつある。その前に、この原稿を書いてしまわねば!!

私は去年の夏、あれは忘れもしない八月十四日その日は暑く、また夕焼けが美しかった。その夕焼けを背に私と約



九十名の留学生がアメリカへ向けて出発した。そして九時間後、ドキドキしつつ、西海岸側のオレゴン州のポートランドというところに到着。ここから行き先別に別れて約九十名の留学生がアメリカに散らばっていった。「一年後に会おうね」と言いながら。

さて、私はホームステイ先と割合近い（車で一時間程）「すみよ」という私より一つ年上の女の子と、ワシントン州のパスコという空港へと向かった。飛行機からの景色は私を思いきり不安にさせた。木一本生えてない気持ちの悪い黄土色の低い山々が延々と続いていたのである。もうすぐパスコ空港とのアナウンスが入っても、町が一向にみえない。私は不安を隠せなかった。そして緊張が絶頂に達した所で、パスコ空港に到着。実に小さな空港だった。私は

飛行機から降りてすぐに、ホストファミリーによって書かれた「ヨウコソアキミ」というポスターを見つけ、ひきつけを起こしそうな笑顔で手を振った。空港の中で、ホストファミリーとの対面。私は極度の緊張のために、「nice to meet you」しか出てこなかった。そしてとてもトイレに行きたかったのだけれどそれもいえないままにすみよと彼女のホストファミリーと別れ、そして私の留学生活は始まったのであった。

私のホストファミリーは、ダッド・ママ・ブレナの三人で、他に「ウインター」というシェパード犬、「サマー」という白い小さな犬、そして「ハイドイ」という毛がふさふさしている黒猫である。ダッドの名前はライナス・C・トーマスで、三十八歳で、自動車工場に勤めるエンジニア。シカゴカーブスという野球チームの大ファンでドナルドダックの鳴声が得意でひょうきんだという印象がするけれども実のところ根暗だと私は確信している。無口になり、一人で部屋のすみでコンピュータチェスをやっていたりする。今もやっていたりして。しかし、ダッドは私にとつては一番の理解者で、ママとかと誤解が生じて気まずくなると、私がわかるまで辞書をひきひきやさしく説明してくれた。そういうことを重ねるうちに、本当にアメリカと日本の生活・文化・国民性、そしてそれが大きな誤解を招くことがお互いにわかった。その他、アメリカンヒストリーのクラスの宿題とかも頼むと丁寧に教えてくれたし、第二次世

てきらいなのだ。おなかで理由がわかる。なんかこう書くともまるで彼女には良い点がないようだけれど、そんなことはない。彼女は、物を一人占めしない。ようするにけちではない。そこは本当に彼女の長所であると思う。

シェパード犬の「ウインター」は、自分の方がよっぽどこわい顔をしてるくせに、ものすごい臆病者である。人みしりも激しい。最初の頃は私をみるたびに、急いで小屋の中に入ってしまうあり様。なれるまでに三ヶ月強はかかった。逆にサマーは、最初から人なつこかった。黒猫の「ハイドイ」も割合人なつこかったが、抱くとよだれをたらすので困った。この三匹に共通な点はみな女の娘ということだった。家族でキャンピングにいった時などは家族の輪ができて楽しかった。日本のキャンピングとは随分違っておもしろかった。家にいる時は、宿題などに追われて意外に家族の輪ができなかったように思う。

さて、学校の方はどうかというと、最初はつらかった。ホストファミリーとかはゆつくりやさしく話してくれていたからいいものの、そんな甘えは学校ではきかない。みんな私がある程度、英語が話せると思ってる。だから最初はみんなが何を話しているのかまったくわからなかった。私の通った学校の名前は「Kiona Benton high school」で日本語で書くと「カイオナ ベントン ハイスクール」である。私の学校は八時十五分から始まるけれども、中には六時半から始まるなんて学校もある。多くの人が知っていると

思っているか、またソ連の感想も話してくれた。ソ連に関しては、ソ連の政治・政治官僚はきらいだけれど、ソ連の国民はけつしてきらいではないと言っていた。ママは名前がコニー（以下姓省略）で三十九歳。彼女は時々ヒステリックになるけれど、根が明るい。そしておせっかいやき。マニキュアが大好きで、五十個ぐらい持っている。故に爪が長い。料理がきらいというのがうなづけてしまう。彼女は専業主婦であるにもかかわらず、洗たくは週に一回。しかしその分、教会活動に熱心である。悲しい映画とかテレビでみると、ブレナといっしょになつてないところがかわいい。ホストシスターのブレナは十一歳で一人っ娘ということもあってわがままだったけれどもひねくれていなくてかわいい。

私が最初にブレナについて驚いたことは、彼女のもっているぬいぐるみの数。百二十いくつかもっている。ぬいぐるみがないと眠れなく、そして朝になると四、五個のぬいぐるみがベットからおちて床にころがっている。彼女は顔はかわいくて一見大人っぽいけれど、ちょっとこけたり、ぶつけたくらいですぐ泣く。やきもちやいては泣くし。これで本当に五年生なのだろうかと思つたくらいだ。そしてくだらないいたずらもくり返し、いつかそれにたえ切れなくなつた時、私は、「You are Gaki!」と言つたのであつた。今思うと、なんてくだらないことを言つたのだろうと思つた。その時は大まじめだったのだからいたしかたない。最後に彼女は好ききらいが激しい。甘いもの以外はすべ

一学期は一月の終り頃終つて二学期は六月の初めに終わる。冬休み夏休みはきつちり一週間、休みの後は一日目からきつちり一時間授業がある。

授業は一時間目から三時間目までは一時間授業、そして四時間目から六時間目まで五十分授業で休み時間は五分でその間、教室を移動する。休み時間というより移動時間といった方がびつたりする。その移動の間にトイレに行けなかつたら、先生からバスとかかれた板をもつてトイレに行くことができる。

私が一学期にとつた科目は一時間目から順に、タイピングIというタイピングをするクラス・英語（なんと特別に個人教授）幾可（一応難しいクラス）・アメリカンヒストリー（一番苦労した科目）そして昼休みを挟んで、コーラス（なんと伴奏をやっていた、最後にホームエコーミクスという家庭科のクラス。（しかし日本の家庭科とは随分ちがう）というふうに、毎日この科目も勉強する。





この授業の中で、特に印象に残ったのが、アメリカンヒストリーとホームエコノミクス。アメリカンヒストリーについては、悪い印象の方が強い。とにかく二十〜三十ページ読んでそれをまとめるなんて具合の宿題が多く、各章が終わるごとにテスト。F(1)を取った数が一番多かった気がする。ちなみにアメリカの成績は五段階でいい方からA、B、C、D、Fである。原因は英語力の乏しさだけでなくアメリカの知識のギャップもある。アメリカ人はアメリカに住んでいるのだから、ある程度のこととは知っている。私はというとせいぜい、リンカーンとか、ルーズベルトのテネシー川開発ぐらいしかしらなかった。家庭科の方は楽しかった。家庭科でもいろいろ友達ができたとし、授業もおもしろいものはいくつもあった。例えば結婚のことについてやると、本当に結婚式をやったりする。ちなみに私は教会でろうそくに火をつける役もやった。三段ケーキなども前の日に作った。他のクラスをお客に招いたりしてとても楽しかった。昼食は何を食べたかという、最初はサックランチ(弁当で中身はサンドイッチ・リング等)だったけれど寒くなるとホットランチ(要するに給食のようなもの)を買って食べた。学校は近いので歩いていていたが、一学期中は英語力不足で本来の自分がだしきれなくて仲の良い友達もできなくて(自分の思っていることがいえないし、相手のいっている

ジョークもわからない)楽しいことよりつらいことの方が多かったと思う。だけれど何とかしなきゃと思って十月の終わりからバスケットボールのチームに入った。はつきりいって私はバスケットがあまり好きな方ではなく下手だった。今だったらきつと入る勇氣などないと思う。部活はシーズン制で冬はバスケットとレスリング。すっかりコーチがついていて、とてもきつかった。その割にあまり試合にはでなかった。バスケットのシーズンは冬。というわけで寒さも格別。バスケットが終わって帰る途中に鼻の穴が凍ってしまった。息苦しかった。ワシントン州は緯度が北海道よりも高いけれど、私の住んでいたベントンシティは砂漠地帯(サハラ砂漠とはまた種類が違う)なのであまり雪は降らなかった。スクールバスで他の学校へ試合に行った時は楽しかった。私はバスケットのシーズンが終わった後、続いて春のシーズンのソフトボールチームに入った。他、野球、陸上競技があった。自分は、松高ではソフト部だったから(下手な方だったけど)、バスケットより楽しかった。試合の時に、日本語で応援したりもした。そういえばソフトをやっている時、春の砂嵐がきたりして、ギャーギャー逃げたりもした。

個なんでもものではない。誕生日を除く一年分の贈り物である。もう早い人だとクリスマスが終わるともう次のクリスマス。アメリカで生活して知ったことは、サーティ・ワン

アイズとセブンイレブンがアメリカからだったこと。マクドナルドは思ったより勢いがなく、ウェンディーズ、デューク・インなど人気があった。それから映画が安い。金、土の夜は、高いけれど、すいている時間帯だと五百円位でみる事ができる。その他、気づいた点は、アメリカとメキシコの仲が良くないということ。私の学校にも何人かメキシコ人がいたけれど、みんなからの印象は悪かった。

それから、春になるとさくらんぼを摘む労働者としてメキシコ人の集団がくる。この時期になると必ずといって、高校の生徒とメキシコ人の若い者がケンカをするそう。現にだれだれがメキシコ人とケンカして首の骨のスジをおかしくして入院したというのを聞いた。さらわれる原因としてはメキシコ人のアメリカへの不法侵入などで、労働の問題が起きていること。それから単に肌の色が黒くてきたなくみえるといっている人が多い。だから今回のメキシコ大地震に対してアメリカがあまり協力的でなかったのがわかる。

もう一度話を学校の方へもどすと、ベントンシティは、どいなかで人口も少ない。だから、生徒の数も少なく、フットボールなどもよくなかった。一度ブーツをはいて学校へ行ったら、カウガールにでもなると本気でいわれてし

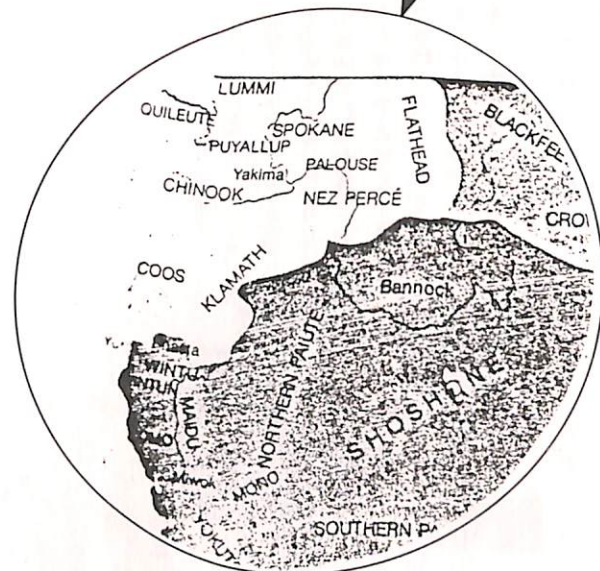
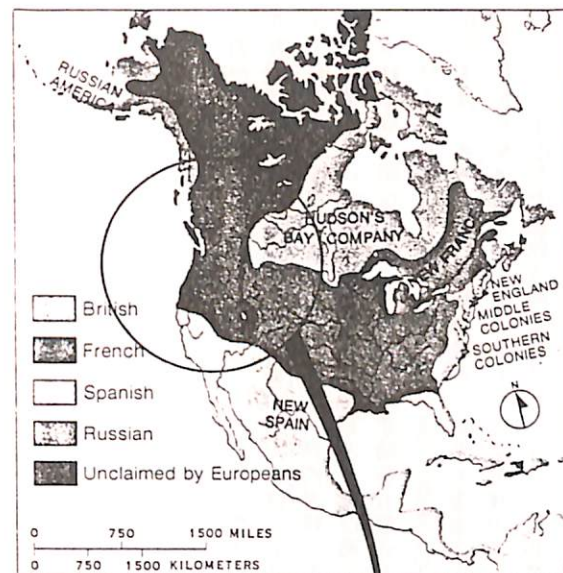
まったこともある。私のアメリカの学校は四年で中三から高三まで、高三(シニア)は五十人弱、高二(ジュニア)が七十五人くらいで、高一(ソフォモア)が九十人くらいで、そして中三(フレッシュマン)が百三十人くらいでとても小さな学校である。そして半分がスクールバス、そして残りは、半分ずつくらいに車・歩きで学校に通う。私はソフトボールに入った頃(三月)から学校生活が楽しくなってきた。映画・ダンスもいき、ローライズスケートにも行った。そして五月頃には完全に有頂点になっていたと思う。思い出す度にはずかしくなることがいくつもある。その時はもう一年アメリカにいたいと思った。そうすれば学年も遅れなくてもすむし、帰国子女として日本の大学に入れるし、英語ももっとうまくなるだろうし、せっかくアメリカに慣れた所で帰るのはおしい、と思ったのだ。そしていろいろな人に相談していくうちにふと、私は帰国子女になるためにアメリカに来たわけではないんだ、



自分を試すため、将来のために来たんだと気づき、そっちの道へ逃げないで日本へ戻ろうと思い返した。そう考えた途端に、日本が恋しくなった。アメリカでの不便な点も思いついた。例えばペンシステイは交通機関が車だけで、留学生は車の免許がとれない。(ワシントン州では十五・五歳からとれる。おまけにタバコは親の許可さえあればいつでも吸ってもよい)等。

私にとってアメリカ留学は、よい経験を持たせてくれたばかりでなく、考える期間をくれた。正直いつまで、なにかがんばろうという気が起こらないけれど、この留学をばけみにしていこうと思う。最後に留学する時にお世話になった先生方、またこの原稿を書かせてくださった鶴田先生ありがとうございました。

With love, Akimi



随想(一)

「戦後四十年」について

三年D組 山川 千佳子



「戦後四十年」。この言葉にはいろいろな意味がこめられていると思う。けれど私の年では、ひどく昔のような気がして、かわいそうだとか、つらかったらどうか、たとえ本気で思ったとしても、しよせんうわべだけのものになっってしまうにちがいない。やはりまだ、そんなふうの一言や二言では表現できるはずのない年だからだと思う。戦争の影も形もない世の中に生まれ育ったのだから。

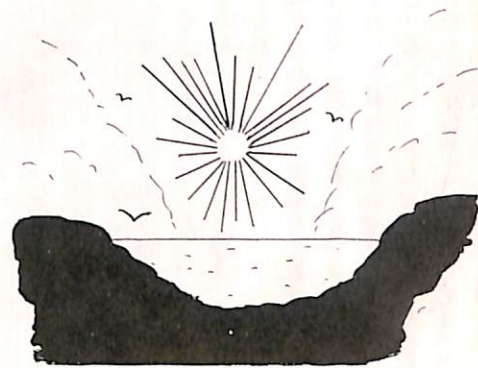
戦争の中でも一番悲惨だったのは、原爆だと思う。そしてその原爆にあった人たちが一番この戦争というものに対して「いかり」や「悲しみ」を背負っている。それは言葉では言いつくせないことだろうし、また、できることなら口になすことと思いたくはないことだろうと思う。でもその人々はそういう気持ちを押し殺して「戦後四十年」

について、私たち若い世代の人々に語ってくれているのだと思う。

今も世界のどこかで戦争がおこっているが、いったいその戦争は何のためなのだろうか、その後何が残るのだろうか。日本は数多く戦争をしてきたが、戦争の本当の意味を知っている人は何人いたのだろうか。何かをするためには必ず犠牲をはらうものだけれど、戦争はあまりにそれが多すぎると思う。戦争を始める人はいつもほんのひとりにぎりの人、そしてまた、それに協力する人もひとりにぎりの人、残りの大勢の人は、心の中では戦争なんかしたくない、でも命令にはそむけない、きっとこんなふうには思っていないだと思ふ。

第二次世界大戦の時も大勢の人が早く終わることを望んでいたのに、日本は負けるのを認めたくなくて、ずるずると戦いを続けていった。そのために死んでいった人は数えきれないくらいいただろう。あと一日早く終わっただけでも助かった人はいたのに。あまりに残酷すぎると思う。それに「敗戦」と言わずに「終戦」といつていることもよくない。現実から目をそむけてしまっただけは何もはじまらないと思う。

本当に戦争をして何が残るのだろうか、いや残ったのだろうか。戦争をして幸せになった人なんて誰もいない。みんな傷を負ってしまった。このことを忘れないためにも、戦争を知らない私たちが「戦後四十年」を考えていくべきだと思ふ。



平和を守るために

三年D組 斎藤 由記子

私は日本が敗戦して二十二年後に生まれました。ちょうどテレビ・洗濯機・冷蔵庫などが普及され始めた頃だそうです。たった四十年の間に、日本が敗戦国から経済大国へと成長したのは、誰でもが知っていることです。正直な気持ち、私はこのような日本に対して、誇らしく思っていました。そしてはっと気づいたのは、この『誇らしき』のために、人間は幾度も戦を重ねて来たのだ、ということです。

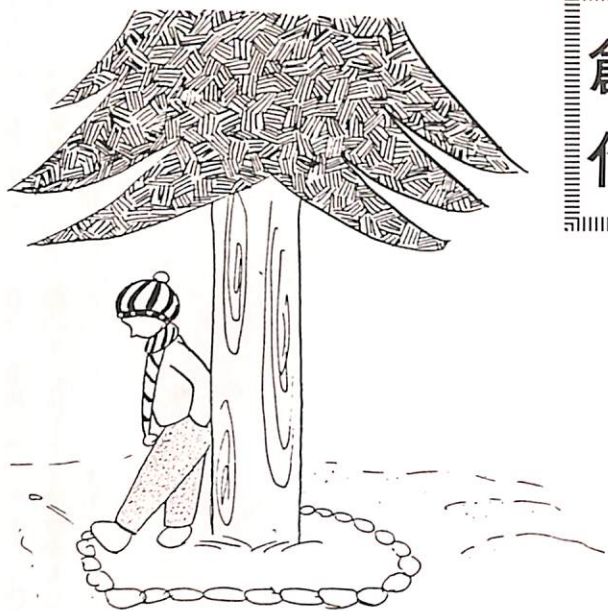
私達の世代は戦争で肉親や兄弟を亡くしたこともなく、ひもじい思いをしたこともないのです。戦争の恐ろしき、悲惨さを、どのように次の世代へ伝えてよいのかわからないのです。とくに私は戦争の話の聞いたり、勉強するのが嫌でした。今でもあまり好きではありません。

修学旅行で広島へ向かう途中、気が重かったのですが、原爆記念館を見学したり、被爆者の方の体験談を聞いたりしているうちに、私はすっかり自分の中にある、戦争に対する気持ちが変わっていくのを感じました。どうというのは難しいけれど、原爆をずっと身近なものとして考えるようになったし、防衛費や軍事問題にも興味を持つようになりました。

あと二年もすると、私は参政権をもつことになります。しっかりとした代表を選ばなければ、日本はどんなアメリカの意図する方向に動き、再び戦争に巻き込まれることもありうるのです。そういう意味でも、一人一人の一票がどれだけ重いかということを皆が確認するべきです。

私も何ができるという訳ではないけれど、一人でも多くの人に広島を訪れて欲しいし、自分も忘れてはならないと思っています。原爆をうけたのは『広島市民』ではなく、『日本国民』であり、また同じ地球人だということを各国の人が思うようになって欲しいと思います。被爆者の方が、『絶対にこの運動が消えることはない。もっと大きくなることを信じている。』とおっしゃった言葉を私は決して、忘れないつもりです。

創作



友への手紙

一E 原田 知子

お元気ですか？
わたしの心をうちあけてしまう無礼をお許し下さい。

彼は夢の中の人だったのでしょうか。人生という名の一

日の、ほんの一瞬かすめてゆく、とても小さな……。夢を見ている本人はとて大きく感じていて、夢だなんて考えていられない。夢の中でも一生懸命追いかけてゆく。

私は卒業という名の目覚めとともに「彼」という名の夢を失うのでしょうか。いつまでも覚えていられない夢。忘れる夢、傷ひとつなく覚えていた夢。一日中覚えていた夢も、夕べ床につく時までで、あとは消える。やはり夢は夢。素晴らしいものも悲しいものも、夢のごとく消えてゆく。全ては無常ってことね。——そんなの、とても悲しい。

人生が0時に始まるのなら、その時から目覚めるまでの間は、「生きている」ことを自覚してない時ね。目覚めるのは生きていることに触れた時。0時より前は前世ね。前世からの記憶が無いから、今生きられるのね。だから生まれ変わる時には、全てを忘れるのね。

卒業はやっぱり節目。生まれ変わるのと同様に。別れて出合い、失って発見する。何かに出会うのは素敵だけど、失うのは嬉しくない。そう、簡単に失う事ができて、もう二度と取り戻せないものが多いから……。『彼』

素敵に生きたいですね。これから。『彼』のためにも。

彼に優しくされたら……。なんて思ったこともあったけど、それには私がついていけなかったのだね。……
……ため息。本当に私、素敵になれたかった。結局なれなかったけど。今さらながら思うのよね。一年後に会った時、一目惚れされる位、素敵になっていた。負け惜しみじゃないけど、一目惚れって容姿じゃないのよ。その人の持つ

雰囲気に着かれてしまうこと……。そうじゃないかしら。
一目惚れされる程、素敵な雰囲気でも何時もいたい。それが
「素敵に生きること」のひとつだと思っから……。
優しく生きたいですね。これからずっと。何時か私を好
きになってくれる人のためにも。そう、全ての人に優しく
できるような人になりたい。とても大変だけど、それが、
私の目標。優しくできるってことは、いつも穏やかでいな
くちやね。もしかしたら、自分に余裕ができたとき、ひと
まわり大きくなったとき、他の人に優しくできるかもしれ
ない。そして、余裕を持ちたいと思ったときも、かな……。

——失くした時に、失くした物の重さが
我にかかってきて 大切だったと知る——

目の前にあった目標は去ってしまったけど。
それはもう、追いつくことはできないけど。
新しくつくった目標に向かって。
追いつけない目標に向かって。
何時か 彼に会う日を夢みて。
私を好きになってくれる人に出会うのを——
夢みて。
素敵で、優しくなっている自分を発見する。
その日を夢みて。
そして何時か、あなたに会う日を夢みて。

Good Luck!

詩二篇



しずく

中原 みき

全てが無くなってしまったみたい

そんな真っ暗な空間に
しずくがひとつ落ちてくる

どこからともなく……

“ル・クール”とは？

le coeur (フランス語)

le 英語の the にあたる定冠詞

(単数男性名詞につく)

coeur 英語の heart にあたる

つまり coeur (heart) は身体の中央にあって、深奥にあ
る人間の感情の本拠地、心や魂の所在するところ。崇高
な英知も勇気も優しい心もここからほとばしるというわ
け。

しずくが水面にあたるような音
鉄琴の音^{おと}声^{こゑ}のような

そんな音しか聞えない

黒い闇があたりを包み
次第に広がる

時間は虚空

人は虚空

暗闇の虚空につまれている

暗闇の虚空につまれている

空洞

中原 みき

終ってしまった……
何だか急に分からなくなりました
妙な気持ち……
空しい、というのか
悲しい、というのか
つまりなくなつた、というのか……

何故、何故……？
知らないうちに
涙が道をつくっていつてしまう
そんなことになることはないのに……

気が抜けだよう
胸がはりきってしまう程何かつまっているようで
頭のなかは全てがまがりあい

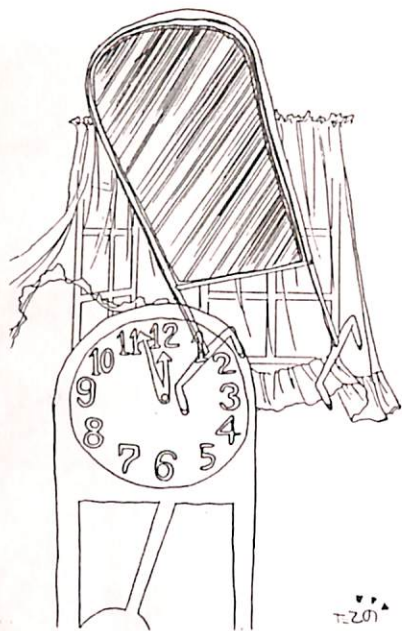
わたしという存在が
大きな渦にまきこまれたみたい

「あ
ふっ」と釣りあげられた魚のように
気が付いた——
でもまだ、ちいさな渦にのまれている

流れてゆくリズムと言葉が
今に居てくれている

渦にのまれて
自分を失ってみると
事を成すことがどんなにつらいか
嫌というほど 思い知らされる

随想(二)



“かがみ”

三年E組 小林さやか

かがみという言葉の意味は、大きく分けて二つある。一つは姿を映し出す鏡、そしてもう一つは人の手本、目標という意味の鑑である。
そこで、まず私は自分の心に鏡を向けてみる。そこには何が映るだろう。にこにこしている顔とはうらはらの不安、嫌悪、意地悪さ。一見、何も考えてないように見える表情

の影に潜む欲望、邪気、したたかき。映るは映る、ほんとうの自分が。そう、瞬く間に現れてくるのだ。もし、実際に何でも映し出す鏡があれば、きっと私は赤裸々にあばかれてゆく自分に目を背けるだろう。それは、恥辱のためだけではない。自分を知ることへの恐怖、真の自分を見つめることへの怯えなのだ。

私は、私という人間をその鏡に映し出してゆくと、自分の理想像とは全く違う自分を発見して、はたとする。そのギャップはいったい何なのであろうか。やさしくて裏表のない人、というのが私の理想像である。しかし真実の私は相手によって態度を変える裏どころか裏の裏まで兼ね備えているのだ。どんなに理想を掲げても、現存するのはこういう人間臭い私なのである。十八年という歳月が私というものを創り上げてきた。そんなに簡単に、おいそれと人格が変わるはずがない。

しかし私は、やはりつらくともほんとうの自分を見つめるべきだと思う。たとえ、そうしたことで傷ついたとしても、しかたがない。真の己を凝視して理解し納得するところから、人間としての成長が始まると思う。己れを知るところから、明日が、道が切り開けるのだ。

五、六十年たった時、私は私の心に何度でも鏡を向けてみたい。きっと今よりは、私の理想「鑑」として人格が映し出されるだろう。いや、是非ともそうなっていてほしい。

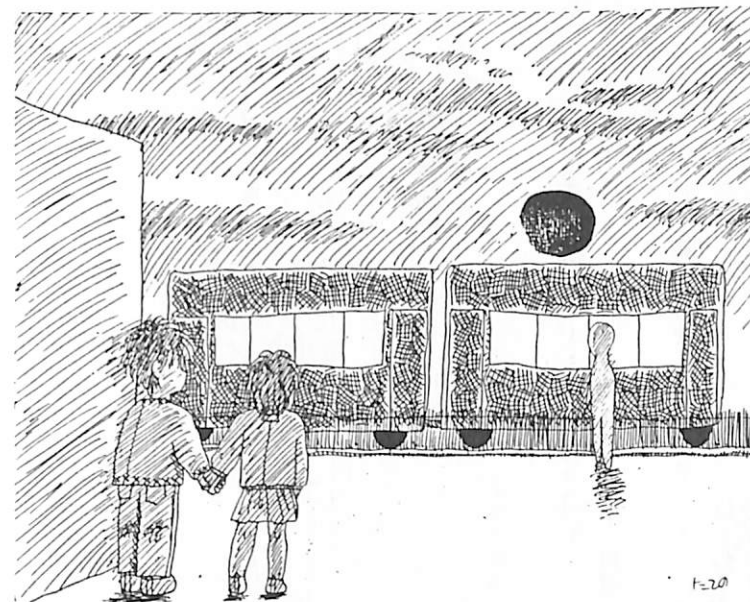
(一九八五年 十月)

行事報告



世田谷線にゆられて

三年G組 佐藤 宣子



私は、毎日世田谷線を利用しています。京王線を通っている人は、世田谷線のことをバス電車・無人駅・二両しかない電車といってバカにしたりしますが、私はあれほど趣のあるものは、なかなかないと思います。

朝は朝で、眠たい目をこすりながら乗ります。そうすると、あの直下型の縦ゆれで眠気はふっとんでしまいますし窓の外の景色をゆっくりと眺められるのも、他の電車にはちょっと出来ないことでしょう。

それに、もう一つ。世田谷線を利用する人で知らない人はいないという、野球帽をかぶった名物男もいます。通称「オハヨウ君」と呼ばれていますが、誰にでもあいさつを欠かさない人で、少し障害をもっています。時々、突然話しかけられたりするので私は苦手ですが、おじさんやおばさんには親しまれているようです。つまり二両しかないので、松高生はもちろん中学生の友達などにも会いやすいし顔見知りもすぐに出来るわけです。

夕焼けの中を走る世田谷線というのは格別です。まるで映画のワンシーンにでもなるような、なんとも言えない落つきがあります。駅がまた、無人だからこそのいいのです。

このような世田谷線に乗って、三年間通学してきたわけですから、想い出も沢山あります。きっと卒業して、他の線を利用するようになって、線路上の猫のために急停車してしまうような、この世田谷線は忘れられないでしょう。

体育祭



赤組応援団

赤組団長 三年B組 吉原 雄

体育祭と言われてすぐ思いだすのは、やっぱり最後のスウェーデンリレーである。ここまでの得点は二位でほとんど優勝できないとみんな思っただろう。今まで二連勝してただけに優勝できないのはつらかった。死にものぐるいで応援した。アンカーにバトンが渡ったところで赤組は一、二、三位を走っていた。応援団はいっしょになって走ってみんな青春していた。ゴールイン!! 感動的なドラマである。逆転優勝!! しかも一点差……最高の気分だった。

応援団の方といえば、始めのうちちつとも集まらず心配だった。特に一年生が来なかった。何も知らない一年生のために練習するのに来なかった。練習中は何度も怒った。だけど、当日一年生は良くがんばったと思う。二年も三年でもある。三年はほとんど昼めしも食わずやった。俺なんか朝から終わるまで何も食べなかった。さすがに腹がへった。でもV3を達成できて良かった。来年もがんばってください。あの日は最高でした。赤組のみんなどうもありがとう。

大きくみつつ、チャッチャッチャ

小さくみつつ、チャッチャッチャ

赤組にみつつ、チャッチャッチャ

おまけにみつつ、チャッチャッチャそれ……

白組応援団

三年D組 竹原 由紀

今年は今までに比べ、極端に練習期間が短かったもので、やらなくてはいけない事をひと通りやっただけで終わってしまったように思います。団の仲間の名前をやつと覚えた頃に終ってしまい、とても残念でした。

白組は、他より人数が少ないので、団だけでもなんとか盛り上げなくてはいけないとあせりました。声出しの練習も、青や赤の大きな声が聞こえて来ると、どうしたらもつと出せるのかずいぶん悩みました。でも、みんなよくついて来てくれたと思います。衣装の面でも、手持ちの物を持ち寄りたり、人から借りたりして費用をほとんどかけませんでした。応援に使う太鼓は、当日の数日前に借りる予定の所がダメになり、前日に探し回るといふハプニングが起きました。なんとかが当日までにすべてが整いました。

体育祭は、あつと言うまに終ってしまいました。まだまだやり足りないという気持ちや、ちよつぱりマスをゲームをやったかっただけという気持ちが残りました。でも一生懸命やって、いっぱい悩んで苦しんで、そして大きな思い出になって、応援団をやっていたよかったと、しみじみ思います。白組団は弱小だったけれど、それはこれからいくらかでも変わっていきます。後輩のみなさん、がんばってください。

応援団をやつて

青組団長 三年A組 松山 彰

応援団長をやると決まった時、はつきり言つてあまり自信がなかった。でも、他の団員達がとても良かったおかげで、今まで応援団をやつてきた中で、一番成功し、また高校生活の中でもとても良い思い出となって、残るだろうと思つている。

今年の応援団は、とにかくみんながまとまれたという事が一番の成功の原因だと思う。男子の場合で言うと、一、二、三年とみんなの気合いが入つていた。とくに一年がすごかった。女子の方も、とても良かったと思う。来年の青組応援団には相当な期待が持てると思つている。

今年の応援団は、とても成功したと思うけど、一年、二年には、あの程度では満足してほしくはない。四、五年前の応援団に比べると、人数は少ないし、予算も少ない。応援合戦やマスゲームが無くされている。だから、これから先生達と交渉していき、自分達で満足できる体育祭、応援団に行つてほしい。

体育祭の反省

一年A組 西野 光一

私は体育委員になり、第二回の委員会から体育祭について話し合いをしたので、まだ何をしたいのかわからないまま、準備がはじまつた。

種目の決定、ルール、担当の係など、おおまかなことがきまつた。しかし、二週間前になつたが、体育祭の進行上大切な、総合プログラムができていなかった。みんながおそくまでのこつて、総合プログラムは完成した。

体育祭の当日、準備の面では反省点が多かつたので、しつかりやろうと思つた。だが、いろいろな面で悩まされてしまつた。応援団がルールを守らなかつたり、集合場所に全員来なかつたり、委員会で決めたルールの説明がゆきとどかなかつたり、数えればきりのないほどでした。しかし、そんないろいろなことがありながら、すべての種目が終わったときには、充実感というもの私の心をいっぱいにした。やはり、失敗は多かつたが精一杯やつたので、失敗などということは、終わったときは頭になかつたのでしよう。今年の失敗を二度とくりかえさないように、来年の体育祭を計画したいと思ひます。

体育祭のアンケート

二年A組 館野 菜々子

はい！こんにちは。今年、我がル・クール委員会で体育祭が終わつたあと、アンケートをしたのを覚えていますか？その結果発表だぜつ。しかし、集計してくれなかつたクラスもいて、票が少ない！わけだ。空間の都合で上位三位まで載せたが、計算するのが大変だつたんでい！

1、体育祭はたのしかったか

はい……………80%

いいえ……………20%

やつてたのしかったもの

一位 騎馬戦……………22%

二位 棒倒し……………20%

三位 着せかえ競争……………12%

やつてたのしくなかつたもの

一位……………13%

二位 障害物競争、50m……………それぞれ11%

三位 全員リレー、棒倒し……………それぞれ9%

2、観てたのしかったもの

一位 着せかえ競争……………29%

二位 棒倒し……………25%

三位 リレー……………16%

観てたのしくなかつたもの

一位 100m……………26%

二位 50m……………22%

三位 障害物競争……………12%

3、ふやしてほしい種目があるか

はい……………41%

いいえ……………59%

ふやしてほしい種目

一位 マスゲーム……………54%

二位 長距離……………16%

三位 綱引き……………5%

ふやしてほしい種目は以下、女子の棒倒し、玉入れ、ハイドル、クラブリレー（あつ、これ面白そう）、騎馬戦の回数、借り物、ムカデ、フォークダンス、サバイバルゲーム、三組（各組、一〜三年の代表で）リレー、女子の400mなどです。

4、一言（票が色々なので、多かつたものだけ、人数で表します。）

● 来年は勝つぞ……………31人

● よかつた、楽しかつた……………19人

● 砂ぼこりをなんとかしろ……………8人

● マスゲーム復活……………6人

● 長距離復活……………5人

私は賞状ほしさに近所で長距離のトレーニングをしてたのに長距離がなくなつたのを知つてくやしかつたなあ。



輝松祭

さる九月十五・十六両日に開催された敬老の日の最大のイベント——輝松祭は、当日の九時に体育館で始められました。今年の記念公演は松原唯子保存会による「郷土芸能」でした。笛や太鼓から次々に「醸し出される」音色に、驚きと感動をおぼえました。会場は曲や舞が終わるごとに割れんばかりの拍手が起り、最後の方の「ノリ」は佐野元春のコンサートを思わせるほどでした。二年前のエポの公演の方がよかった、なんて言わせません。来年を期待しましょう。

記念公演が終わってしまうと、さきほどの興奮は消えさり人気（ニンギ）ではなく、ヒトケだゾ）がなくなってしまう。体育館は、十一時から始まる各団体の出し物 wait しているのでした。最初の出し物は、そう、あの超話題作、泣く子も黙るI教師演出による「シンデレラ」でした。開演十分前、ギャラリから舞台に入る諸先生。女装が違和感ないK先生、女装がはずかしそうなS先生、それに女生徒から声がかかるとうれしそうに手をふるM御大が通るころには会場もほとんど（？）埋まり、幕があくのを今か今かと待ちうけていました。十一時すぎ、会場の電気が消され幕があく——すばらしい劇でした。無気力な我々松校生に体でもってほんとうの「青春」を教えてくださいな。演劇部でした。次いては、体育館出し物の見本である演劇部の

「夏の夜の夢」、そして昨午人気投票一位だった「おばけ屋敷」をやった三年A組のミュージカル、そのあとはなんと一年生でただ一組の体育館での劇だった一年C組「裸の后」、そして十五日の最後は世田谷村が誇る管弦楽団MBCによる演奏でした。十六日になると十時すぎからは昨日最後のMBCの再登場が始まり、意味のない内容にしてはエンディングが決まってしまった三年F組「三年寝太郎」脚本は独創で演技は一人一人が独走した二年F組「涙の向こうに明日がある」、そしてトリは昨日の感動をもう一度の演劇部で体育館の幕を閉じました。昨日の胸のときめきはどこへ行っちゃ、終ってしまおうとむなしいものです。このむなしさは終ってしまっただけなのでしょうか。この他にもう一つ心あたりがあります。どの出し物にも行なっている団体には活気があったのですが、会場の方、とりわけ後ろ半分はいつもきれいに置かれたパイプ椅子は、冷たいままだったからではないでしょうか。松校の体育館はちょうど三年前に完成したばかりの「新品」なのですが、そこに訪れた人が少なかったということは残念でたまりません。せっかく松校へ来ていただいたなら体育館を、そして内で行なわれた下手でもその団体が作り上げたものをもっと大勢の方に見てもらいたかった。というのが私の実感です。

(体育館編)

アカデミックな視聴覚室

視聴覚室では三本の映画と合唱部の発表がありました。まず、映画はエンペラーズハウスの「イナズマンフラッシュ」ユ」と「WAY」の二本。2Aは「ある終業式」でした。エンペラーズハウスは昨年の「キカイダー」に次ぐなつかしのヒーロー物でした。時間不足のため、残念ながらキカイダーを上回る作品にはならなかったものの、アクションの多用、中華街ロケ、説得力のある説定など新しい試みもあり、見て楽しい作品に仕上がっていました。スタッフの汗と涙の結晶ですね。

「WAY」は浅見真理子氏の心の内面を映像にたくしたオリジナル映画でした。ほんの15分程度の長さなんです。浅見氏の進路に対する心の葛藤からその解答まで、二人の女主人公によって象徴的に美しい映像で描かれています。これは私個人の感想ですが、「WAY」は本当に感動しました。強い個性の役者さんの演技は演技を通りこして本当に実在していたし、浅見氏特有の映像宇宙は音と画面のずれや、シニールな構図で充分表現できてたと思います。それに、アニメを使ったことは成功か否かは別として、映画のメディアでは、画期的な事だと思われ、映画全体はともよくまとまっていて、とても分かり易かったです。

もし見ていない人がいたら残念ですね。私が紹介するよりぜひ観てもらいたいですね。

2Aの「ある終業式」は、クラス全体が出演しているSF映画でした。この映画を撮影した平野くんインタビューしてみました。

「はじめてにしてはうまく出来たんじゃないの。それにクラスが協力的でまとまったね。」という意見でした。

平野くんは「イナズマン」の監督も手がけているので、イナズマンについても一言おねがいました。

「有志ならではの団結があった。見てくれた人も楽しんでくれたのでとりあえず成功だったと思う。ただ去年のキカイダーをずるずるひきずってしまっただけで、脱せなかったのがくやしいな。」ということでした。

平野くんは、文化祭の前、一週間以上ほとんど眠らないで映画の編集等をしていました。

合唱部の発表ははじめの歌を歌ってました。でも、部員数が少ないので、少し元気がなくて残念でした。

視聴覚室はいつも満員でとても好評でした。狭いせいもあって、アカデミックな熱気が充ちて、とても良かったと思います。映画を撮るスタッフ達の大変な苦労を見てきたので観客が満足して帰る姿を見ると、本当に嬉しくなっています。みんなの苦勞も無駄じゃなかったと思えます。素敵な映画を撮って下さったみなさんありがとうございます。

輝松祭音楽室有志バンド

九月十五日、十六日に行われた輝松祭では、音楽室で有志団体バンドによる演奏で盛り上がりしました。それでは音楽室をのぞいてみましょう。

まずは、one side passage — 自転車道をのぞく — です。ボーカルの茂木先輩、女物のゆかたを着て、スピーカーを片手で歌っています。ステージには、メンバー以外の人達が歌い踊りまくっています。最後に一言「ザ・ベスト」

次は「The Thump」。女だけのバンドです。アンコールでは「六本木中」でのりまくっています。「アンコールの曲は最初から決めてたんですか。」という質問には「そうです。」と力いっぱい答えてくれました。

次に「Sex」。オープニングは「さくらさくら」で始まって、突然変わってロック、ロック。歌詞は全て英語でレインボーの曲が二曲、途中、みんなおなじみゲームセンターのポパイのおばさんまでもやってきて応援。

お昼に入って、東京土人倶楽部。メイクがものすごく凝って、まず気をひきます。キーボードの人はガスマスクまでつけてしまうという徹底ぶり。ドラムの人は手拍子をして観客をのせ迫力でおした一時間でした。

そして、エレクトリック・バナナ。今までは三年生のバンドがほとんどでしたが、二年生男子のバンドのトップ。

「アッコちゃん」のロック編は、観客の興味をひいています。さて次は、山口組 です。メンバー紹介の時、唯一腕がいいといわれたキーボード梅原先輩のラストナンバーのソロは聞かせます。途中、友達のドリンクサービスをうけてボーカル山口先輩は「みんな気がきいているよな」と感激。二日目に入って、アトリエ乱。今回の有志バンドでは最少人数で三人、メイクが鮮かで赤・青・黄とハイカラー。ボーカル原先輩「この音楽室をディスコにしてやる、これはもう宗教だ。」とのりまくりました。

最後に、mist。白井貴子、マドンナ、山下達郎、レベッカなどメジャーな曲を選んで観客をのさせます。ボーカル西村先輩「結成は六月下旬です。二日目の方がうまくできました。」と言ってくれました。ドラム重松先輩、ツリーのライトを背負って熱演でした。

各バンド、一時間だけの割あてでしたが、なかなかの熱演ぶりで盛り上がった二日間でした。来年もまた熱演を期待します!!



クラス（展示）

今年の文化祭は展示が少なかった。その展示の中では喫茶店が多かった。各クラスごとに、いろいろ名前をつけてやっていったようだった。ほかには、視聴覚室ではなくクラスで発表した映画があった。三年E組である。何本かあったらしいが私は一本しかみてない。その一本とは、素晴らしい青春ものであった。ある女子校に男子生徒が数人転校してくるというものである。そしてその中の二人がだんだんひかれあっていくのだった。時は夏。海がでてる、河原がでてる、夕陽がでてる、サテーターワンがでてる。思わず「バカヤロー」と叫ぶのかと思ってしまった。しかし、話は青春ものだけですまないのであった。実は男の子の体験は自分の夢だったのだ。最後の場面の本当は知り合っていない二人がすれ違ふところが印象に残る。三Eのみなさんの演技もなかなか達者だった。

次に、三年生の威厳にもかかわらず、ギヤルコン&カラオケ大会”をおこなった、二年C組についてかいておこう。ほとんど、一夜づけのかざりつけにもかかわらず、みたためがとつてもかっこよかったね。当日、お客さんが、ギヤルコンの写真だけ見学してカラオケの方をムシしていくところが印象的だったけど……。

後夜祭

今年の後夜祭もまた雨で体育館になってしまったけど、意外に盛り上がりたみたい。

フォークダンスもわりとみんな参加していたみたいだし、中には女の子の方が人数多すぎて余ってしまったって嘆いてた子もいたみたい。……たたく松高の男子は何やってんの！

まあ、みんなワイワイ ガヤガヤ楽しそうだったネ。

だけど踊り方のわからない曲が出てくるとガンのよネ。手をたたくところなのに、一人でクルリとまわってしまったのはじをかいたり、……あとパートナーがなかなか交代しないのもジレツたくなってくるんだよネ。

ウーン、こんな中にはすてきなカップルが誕生したんじゃないのかな？ 現にいたんだよネ……幸せそうなお二人さん……。

あと残念にもだめだった人もいるかも……とにかく松高の後夜祭なんて、年に一度しかないのだから、ラッキーな人も、アンラッキーだった人も、さかいだ人も、暗かった人も、恨まず、ひがまず、いい思い出にしようネ。ま、とにかく今年も良かったみたいですよ。

輝松祭について

三年G組 古川 泰

今年で僕も輝松祭は最後になるわけなので、一生懸命悔いのないようにがんばった。一学期の末から有志のバンドを組んでいたの、その日のためにがんばろうと思った。

有志には力を入れていたが、一番気を使っていたのはバンドではなく、そのバンドをどういうふうにするか、盛り上げられるか、又どのようにすれば良い音質が作れるかということ、もう考えたばかりが、良い音質が作れるかという、数限りないほどの器材を借りれる店を探し回って、やっと見つけたのが今年利用した所だった。探しただけあって良い器材がそろっており、業者の人も親切だった。

とにかく今年には有志団体のそういう面をほとんど何もかも自分一人でやってしまった。自分しかない、自分がやれば成功する、そういうったずうずうしいような自信でどんどん進めてしまった。前日には、忘れてはいけない、思いついたことをすぐに紙に書いて壁に張って置いた。一日中「あの時はこうしよう」という思いつきで壁には数十枚も貼ってしまった。しかし、全部が全部自分でやったわけではない。本番の時は音質のことで先生方や、照明の方でも有志の仲間の父親に手伝ってもらったことにも感謝しなければならぬ。

一日目も二日目も準備から片付けまで、自分一人が威張

っているにもかかわらず、みんな手伝ってくれた。片づけが終わって元の教室にもどると、もう何もかもが終わったのでとても気持ちすがすがしい。こんな気分は本当に生まれて初めてだった。そしてもう何もできないような自分の体の疲れはとても貴重なもののように思えた。

“おことわり”

次は「クラブ紹介」と「委員会報告」です。まことに残念ですが、次のクラブと委員会は、原稿が締切日に間に合いませんでしたので掲載できませんでした。ここにおことわり致します。

写真部

柔道部

卓球部

バトミントン部

男子バスケットボール部

女子バスケットボール部

山岳部

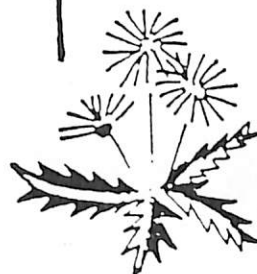
水泳部

クラブ委員会

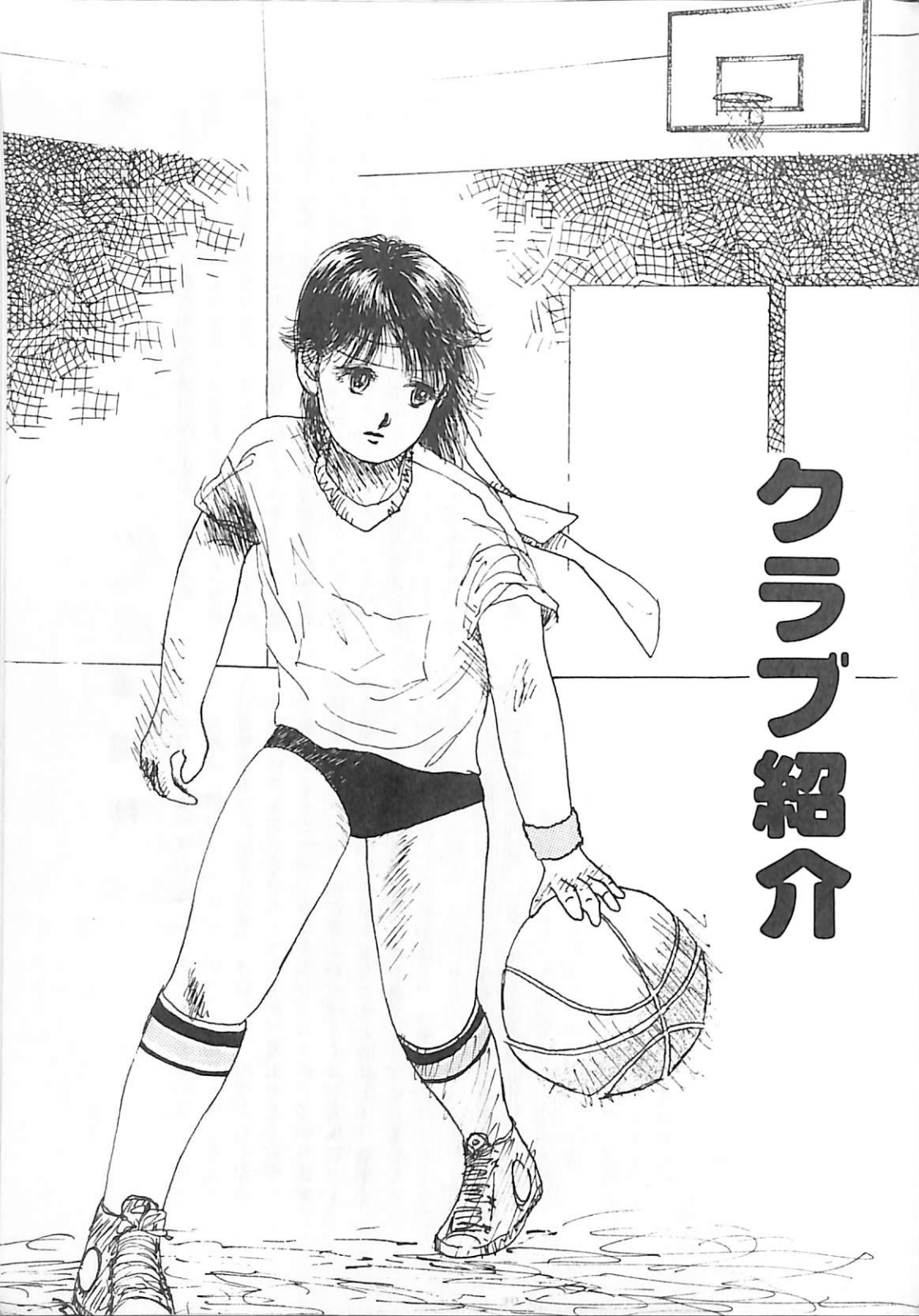
文化委員会

保健委員会

整美委員会



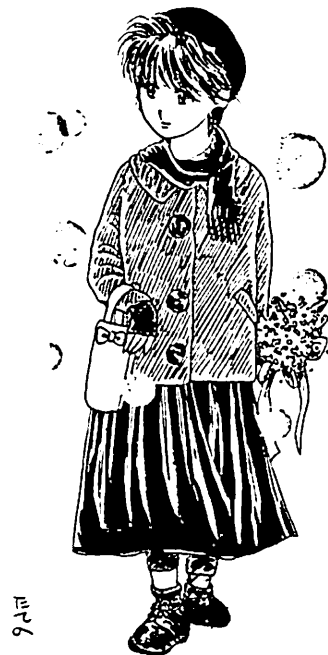
クラブ紹介



美術部

今年になって再活動を始めた美術部ですが、実はまだ、これといった活動はこれからといえましょう。何しろ部員が少なく、私なんか今までにほとんど出たためしがないもんですから。それでも、輝松祭では小さいギャラリイながらも個人作品が展覧できたんです。通りすがりに見てゆく人々の中には、「なんだよー、これっぽっちかよ。」と影で私達が聞いているのにもかかわらず、言っていった人や、私達の作品の何点かを買って下さった人々、何だかよくわからないけど、とにかく足を運んで下さった人々、まあ、様々でした。確かにごくわずかな作品であつたけれども通りすがりの方々の息ぬきにはなつたのではないでしょう。か？ とにかく作品の売り上げ金は六百円。これをお茶会に使おう！ と、楽しい思案をしている次第なのです。

(二年B組 下野 里歌)



1126

アニメーション研究部

えーと、うちの部は、一学期に新入部員がはいるとすぐ文化祭で上映するアニメの話をはじめます。そして、自腹切つて、動画用紙などを買ひ、夏休みになると制作を開始するのですが、来るのは一人か二人……。そして夏休みもあと何日というころになると、本格的に制作がはじまるというしまつ。そこで毎年、文化祭一週間ぐらい前になると、ねるまをおしんでアニメをつくり(恐怖の修羅場)やつとの思いで完成させてよろこびにひたる間もなく当日を迎え、あつという間に終わってしまうんです。そしてあとにのこるは、赤字とつかれと散乱した動画用紙……。はアー。

十一月には、会誌制作にもえ!!、三月には家族が巣立ちし、四月にまた新入部員を、迎えるのです。

おーざっぱに言つてこれが一年間の活動内容ですが、この一年間の中で、部員は、いろんなことをまきおこし、バカさわざをして、新入部員は家族へと変つていくんですよ。

おわり

華道部

私達華道部は、女の子ばかりのとても家庭的なクラブです。流派は京都古流で、毎週土曜日の活動日には、家元の久野連峯先生が御指導に来て下さいます。活け方も、片寄せ、飛びいけなどいろいろありますが、先生がとてもやさしく教えて下さるので、みんな少しずつ上達していきます。一年間の中でも、みんなが特にがんばるのは、文化祭です。文化祭では、秋の始めの花々をたくさん活けます。毎年、たくさんの方の父兄の方や来賓の方が見て下さつて、書いてもらった感想は、とても評判が良く、来年への励みにもなります。

また、季節によつて変わる、いろいろな花の名前も覚えることができるので、一回一回がとても良い勉強になります。そして、お正月にはまた、正月用の特別な花を練習して、家に持つて帰つたりします。

今までやつたことのない人も、自信のない人も、先生が初めから優しく教えてくれます。週一回だけの活動なので他の部とかけもちの人々がほとんどです。土曜日に被服室で練習しているので、見に来て下さい。

生物部

ちよつと昔の話しにもどりますが、文化祭の時、部員が女子ばかりなので、先生やOBの方々にも手伝つていただき、今年は本当に大変でした。各部員で展示内容を模造紙に書き、文化祭の前日やつとセツトしおえたんです。

そして文化祭当日……………。

やはり例年どおり、生物部の展示を見てくれる人は、少なく部員も去年ほど激しい呼び込みもしませんでした。

生物部が最近活動してないと上條先生もなやんでいます。部員の皆さん生物室に顔を出すようにしましょう。

ところで、「生物部」というクラブは、ほとんどのみなさんに「暗い」という印象を与えていると思います。そう今、これを読んでいる「あなた」もそうでしょう。「合宿なんてあるの!？」と聞かれたこともございます。が、なかなか入つてみるとたのしいし、合宿はかなり女の子にはハードだけど、「自然の中の二泊三日」ですよ。今年は、朝の「御来光」で、雲海を見ました。このときばかりは感動です。みなさん、もう少し違った目で、「生物部」に注目してみて下さい。

(部長 二C 入山仁史)

ブラスバンド部

何時も騒々しい松高ブラスは、超驚異的分烈症的天変地異のグループ。神に才能を与えられた音楽家達が、松高生に愛と希望を与える為、週四日の練習に精を出している。音楽。それは青春。楽員の目は輝き、指揮者は情熱的。練習。それは愛の行為。これはある一日の出来事。

指揮者「そこ、そこはもっと強く、激しく！」

部員A「あ、いいわ！ 音楽って最高よ！ もっと!!」

そこに、超過激的笛吹副顧問のM先生が入って来た。

M「ハァーイ、まなぶ君だヨーン。」うっ。寒気が。

指「せ、先生、気をたしかに。一体どうしたんですか!!」

M「とんでもねえ、あたしや神様だよ」とその時、先生の目に映ったのは、情熱的セクシー部員Aの姿だった。

M「ふっふっふ。女王様とお呼び。」

A「キヤー、先生、何をするんです！ もっと!!」とそこに超華劇的美人顧問のS先生が入って来たから大変。

S「ねえ、部長さん、予算のことだけど、明日……」

S先生は、その狂喜に満ちた光景を見て、こう言った。

S「……す・て・き♡」

それからの練習は、ますます愛と情熱に満ちています。あなたも、ぜひ、この愛と情熱を体験してみませんか。

(この文章に登場する人物は、全て実在しています。)

(舞跳 2 E 古屋 誠孔)

(部長 二A 館野 菜々子)

合唱部

はつきりいって、今の合唱部は、「暗い」以外の何でもない。何故かという部員が自分一人しかいないので、何時も先生と自分の二人で合唱の練習をしている。その光景は、嘘でも「明るい」「にぎやか」などとは言えないのだ。本当はもう一人部員がいるのだが、わがままにも出てくれないとなつてしまった。しかし自分は必ず彼女を復帰させたいと願っている。しかし、何故部員が全然いないのにつぶれないかという、部員名簿にはちゃんと十人以上部員の名前が載っているからである。その人達は文化祭の時にだけ手伝ってくれるのだ。しかし、部員が自分しかないのは全く面白くない。勿論数々の人々をクラブに入れようとしたが皆、首を横に振るばかり。「こんなクラブやめてつぶせよ」と言う人もいる。クラブの存在を知らなかった人もかなりいた。公の紙面に合唱部の事を宣伝したら「合唱部なんかつぶれろ」などと叫ぶ連中もいる。しかし自分は負けない。普通の人なら当然部をぬけるだろうが、自分は多分、いや絶対部をぬけない卒業するまで部長をやるだろう。自分はそこいらの連中のようにひ弱でないし、もう一人の部員がいなくなり、一諸にぬけるような主体性のない奴らとは違う。こんな自分が居るこのクラブへ、誰か入るであろうか？ こんな自分をえらいと言おう人もいる！

(部長 二A 館野 菜々子)

演劇部

昔々松原での事、為体の知れない奇妙な一団が居りました。名を演劇部と申します。其れは遠くから見ると黒く長く長い一個の塊の様でしたが、近寄って見れば只のごった煮的ちゃんこ鍋的組織なのでした。彼等は松原最高最強の綺麗星として文字通り劇を演ずるべく結集したのですが、其のごった煮的ちゃんこ鍋的性格の為論争が絶える事は無く、その度に彼等の放つ電光と放射能で渋谷区の人口と同じ数の人々が昇天し、レニングラードの人口と同じ数の人々が眼をやられてしまったのです。此れに困った釈迦如来様、基督様、ゼウス様、アラ様は彼等を押さえようとしてましたが、彼等は逆に結束し神々に反抗し始めたのでした。バビロンに塔を築いたり、グリコの社長を誘拐したり、米騒動を起こしたり。果ては三億円を強奪するわ、バステイユ牢を襲い囚人を傭兵にして印度で英国軍と戦うわ、ローマ帝国を滅ぼし満州国を建てるわ、金閣寺を燃やしてええじゃないかを踊るわ、そのみなぎる体力とわきでる知力で悪の限りを尽くしたのでした。神々は怒り、天使七人を先頭にした十二個師団を送り彼等とハルマゲドンで戦い、苦戦の末彼等を松原に封じこめたのです。其の後、彼等は本来の目的、演劇の志を取り戻し素晴らしい芝居を観せてくれるようになったのです。めでたし、めでたし。

(部長 二A 宮田 龍七)

クッキング部

私達クッキング部は、顧問の角先生の下で活動しています。運動部とは違ってあまり活動が派手ではありませんが先輩、後輩の区別があまりなく和気あいあいとやっています。

主な活動としては、この間の文化祭でのパーラー開催です。あの時はいろいろな方の協力を得て一応成功を納めました。その裏での活動がすごく大変でした。毎日夜遅くまで残り用意したり、エプロンを製作したり………。体調をおかしくしてしまいうでした。でも毎日活動していたおかげで部員同志がわかりあえるようになりました。

もちろん活動は私達だけで行っているわけではありません。顧問の先生あつてのクラブです。角先生にはいろいろな迷惑かけてしまつて反省しています。

これからも、もっと部が繁栄するようにがんばっていきたいと思います。

(部長 二F 清水 優子)



陸上競技部

これから、陸上競技部についてご紹介します。陸上という、走るのとおそいか、体力がないからとか言ってる遠しがりですが、どんな人でも参加できるのです。陸上といっても、いろいろな種目があります。短距離、長距離をはじめとして、いろいろです。その中にきつとあなたにもできるものがあります。しかし、陸上競技は、他のスポーツとは違い、個人種目なのです。ですから、個人の自覚のある人で、それを成功させるかしないかが決まります。陸上競技はいろいろなスポーツの基本となる足腰もきたえることができます。ですから、何かスポーツをやりたいと思ってるあなた！ 陸上部で今日から一緒にやってみませんか？ きつとあなたの体力向上に役立つことでしょう。

陸上部では大会があれば、どんな大会でも出ています。シーズン中は、個人の名々の種目、シーズンオフには、長距離、駅伝もあります。都大会にも数名行きました。

MASC（松原アスレチックスポーツクラブ）のジャージを着ている人を見かけたら気軽に声をかけて下さい。それではMASCこと陸上競技部をよろしく！

剣道部

うちのクラブは男子より女子の部員が多い。三年男子3人に対して女子は6人、二年男子4人に対して女子6人、一年男子7人に対して女子5人とそろって一年だけ男子の方が多。特に今年（60年度）は今までと違って男子が異常に多く入部した。しかもその大半がほとんど初心者であったが、なんとか試合にも出せるようになった。防具は学校の物を借りて使っている。剣道と聞くとお金がたくさんかかると思うのは誤りである。他のクラブとさほど変わらない。

練習は月・火・木・金の週4回。一学期は主に初心者育成のために基本に力が入られる。夏休みには全員が防具をつけられるようにする。合宿はきついが普段の練習はたいしてきつくない。たまにOBが練習を見にきてくれる。練習はきびしいが練習が終わると、とてもおもしろい先輩である。

剣道では、精神力が重要な位置を占める。動揺しない心「不動心」、一つのことが終わって少しも油断せず次におこるどんな変化にも対応できる心「残心」、物にとらわれず一気に解放する心「放心」などすきのない心が養われる。剣道をやると精神的にも強い人になります。

以上山内猛馬でした

（部長 二C 井上 太郎）

野球部

——わが青春の野球部のないしょ話——
我らが、輝かしい栄光と、伝統のある松高野球部は、はつきりいつて、強い、うまい、安いの三拍子そろっている。打線といえば、点火すると爆発する線香花火打線で命が短い。守備といえば、トンネルをぬけるとそこは火星だったというものである。部員はみな、シルベスタ・スタローンのような筋肉でクリント・イーストウッドのようにしぶがっている。マネージャーといえば、あのヒロノミヤ様と御デイトしたといわれるブルック・シールズのようなのである。サードの某選手は俊足でその足をバイオニック手術（費用極秘）をうけたというもつばらのうわきで、センターの某選手はサイコキネシス戦士であり触らぬ神にたたりなし。ファーストの某選手は半魚人で夏にひあがつてしまいい海につれていったらそのまま帰ってこなかった。そしてなんととっても、野球部のキャプテン、ファイティング・スピリットの土塊、ピッチャーをやったがっているが、やらせてもらえない日影エース、ホームラン王のナボナです。

最後まで読んでくれてありがとう。この文章はフィクションであり、軽く読みながして下さい。

提供は野球部 作者は半魚人でお送りいたしました。

さようなら

ソフトボール部

こんにちは、みなさん松高のソフトボール部の活動を見たことがありますか？ 顧問は松永先生と松本隆先生の二人なんです。今は松本隆先生に指導をしていただいています。男子の中には「女だからたいしたことない！」と思っている人もいると思うけど、男と女にパワーの差があることを除けば、うちのチームもなかなかのものなんですヨ。中には男子よりも力のある人は数人います（私を除く）。

そして、練習内容は、ランニング→体操→キャッチボール→守備練習→形式ノック→ベースランニング→体操。といった具合で、守備練習の所が、フリーバッティングや、トスバッティングといった風に打撃練習をする場合もあります。これからは、来春まで公式戦はないので、筋肉トレーニングなどを主に練習するつもりです。

最後に、うちの部の特色は、部活以外のときは、先輩と後輩の区別がなく、仲良く、和気あいあいとしています。そして他のチームに負けないぐらい、チームワークは抜群です。みなさんも、放課後ひまな時には、ふと窓の外をながめて下さい。

（部長 二D 渡辺百合子）

硬式テニス部

“テニス”といっただけに思い浮かんでくるのが、“テニス・ギヤル”とか、“エースをねらえ”て言葉だと思えますけど、実際にテニスっていうのは、“テニス・ギヤル”みたいで、足が細くて、スリムでプリティな女の子ばかりいるわけじゃないし、また男の子だって背高くて、ちよつとキザッぱい一枚目半がいるわけじゃない。それに加えて、いつになつても“エースをねらえ”のおちよう夫人やひろみのように上手になつてはくれないものなのです。要するに、難しいスポーツなんです。だけど、かつこいいからやってみたいと思いませんか。

うちのクラブは、まだ10年程の歴史の浅い部です。合宿もいろいろ大変でキツイと思います。休みは週一回、金曜日で、ものすごい大人数なのに、コートが2面。その2面で毎日、一生懸命、楽しく練習しております。先輩方とも仲良く、和気あいあいとしているムードです。

とにかく、テニスをやれば、どんな人でも“テニス・ギヤル”又は“テニス・ボーイ”ということをお忘れなく。さあ、今日からあなたも

“LET'S ENJOY TENNIS.”

(二A 佐野 淳子)

軟式テニス部

「たのしいたのしい、おにのうにたのしいなんしきてにすぶとは、どんなくらぶかということのをのべる、おちゃめなくらぶしようかい」

テニスというと最近硬式が主流だけど、うちの軟式テニス部は硬式よりも古くからあったため、お父さんのような年齢のOBもいて、優しく指導してくれるし、OB会と言うのがあって、現役から卒業生までとても仲のいいクラブです。練習も男女いっしょで、和気あいあいとしています。練習は、月・火・木・金・土の週五日で、コーチや先輩と一緒に楽しい練習をしています。

夏には山中湖で毎年合宿をやっています。暑いコートで青春の汗を流すことはとてもすばらしいことです。

最後の日にはお菓子やなんかで打ちあけみたいなのをやります。その時には練習の疲れも忘れ、みんなでばかなことをやってとても楽しい。OBやOGは20人もくるので、指導が丁寧です。そして、合宿が終わるころには、自分でもしらないうちに実力がついていて、最後の日にはほとんど全員が帰りたいくらいだと思います。このような年上の人達と六日間一緒にいるとテニスだけでなく色々なことを教わります。

ほんとうにすばらしいクラブだと思っています。

軟式テニス部 万歳！

サッカー部

——明るい未来のためのサッカー部——

こんにちは、サッカー部です。

ぼくたちサッカー部では、クラブ活動というものは、本来サッカーを知らない人達が入って、上達していくところだと考えています。だから、“サッカーなんてやったことない”という人も歓迎です。また、だからといって、サッカーをやったことがある人が入部できないわけがありません。はつきり言つて“大歓迎”です。

また、“サッカーはやりたいけど、いやな先輩がいたらやだなあ。”と思つている人。その心配は全くありません。サッカー部というのは、その性格上“ワル”が集まりやすいけれど、我がサッカー部には、そんな人はいません。そのかわりといつてはなんです、やさしい先輩ばかりです。それに他のクラブでは、こわいらしいOBも、サッカー部では、親切でとてもやさしいです。

そして注目の活動日は、毎週、月・火・木・金の週四回で、土曜日は練習試合のためにあけてあります。

やる気のある人が入部するのを期待しています。

マネージャーも歓迎です。

(部長 二E 吉田 茂樹)

ラグビー部

ノーサイドの瞬間——戦士たちはようやく走ることを忘れる。勝負の明暗を分ける。両手を振り上げ、仲間と抱き合い、嬉し涙を拭い合う。あるいは肩を落とし、自分を殴り悔し涙をジャージで隠す。そして、男たちは互いの健闘を誉め称え、素晴らしい勝利に、価値ある善戦に心から拍手を送る。——ここにラグビーの本当の良さがある。

松原高校ラグビー部の中で、このラグビーの本当の素晴らしさを知っている者は、おそらく監督である橋本雄司先生だけでしよう。38人の部員も、8人の女子マネージャーさんも、知っていることといえば数少なく、試合に勝てば嬉しい、負ければ悔しい。走ることは苦しい、タックルはつらい。主将は怖い、監督は気が短い。ということ位で、あとは基本的なルールを理解しているだけです。

そんな部員たちも、新人戦・春季大会・秋季大会・夏合宿を通り抜けると、いつしかラグビーを楽しみ、苦しい時は皆も同じということも理解するようになります。

部内はとても明るく、ユニークな連中ばかりですが、あまり優等生はおりません。そんな連中も、グラウンドに立ちいざ共に戦う時には、信頼できる男たちにかわるのです。勝つても、負けても皆が最後まで、自分に勝ち、精一杯走る。そういう試合ができるチームを目指しています。

(主将 二E 梅原 卓)

男・女バレー部

まず、男子バレー部ははっきりいって弱いです。試合に
 できれば一回戦負け、負けるたびに今度は勝つと思うのです
 が、なぜか勝てません。こんな僕達だけど気はやさしくて
 力もち、いつもにこにこ元氣な子。まあ、とにかく変なク
 ラブですが自分たちなりに努力してるつもりです。
 どうか今後もしよろしくお願いいたします。

そして女子バレー部はちょっと太めの女の子が集まった
 平均体重72kg、やせるためにバレーボールをやってる感じ
 いつも問ぬけなことをやっているけど、いざ試合となれば
 結構強いんだぞー。まあ、男子バレー部同様、ちょっ
 と変なクラブ。でも入って後悔はしないよ。

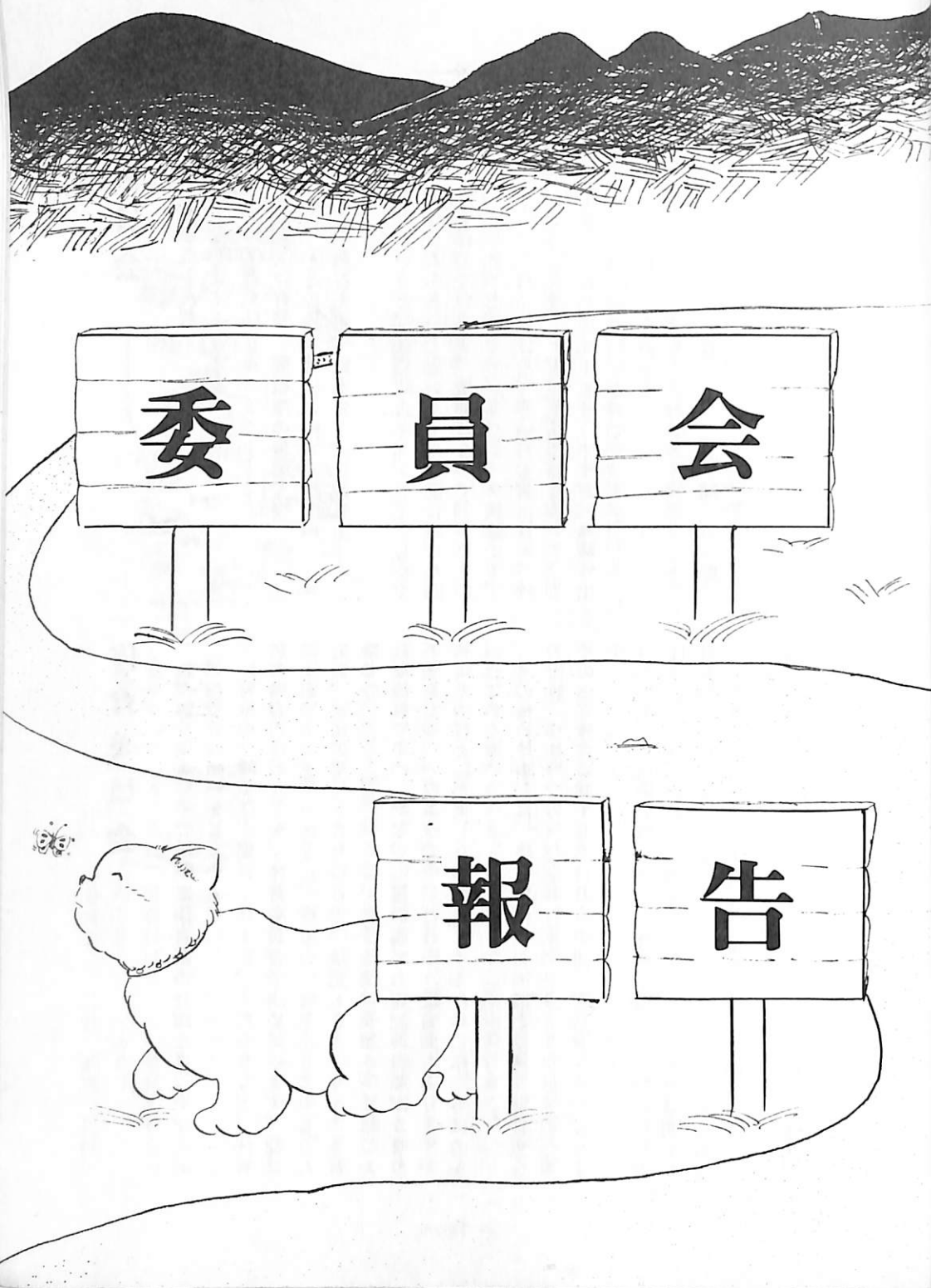


ワンダーフォーゲル部

『ワンダーフォーゲル』という言葉を知っていても意味を知らなければ、
 仕方ありません。この意味は「渡り鳥」で、意識すると
 「冒険」「探険」となります。

さて、活動内容と言うと、開けてびっくり玉手箱とそ
 れ程ではありませんが、春、夏、秋、新春、の年四回の山
 行があり、その他は時々数人が集まって昼飯をつくったり
 お茶会をひいたりすることもあります。顧問の先生も大
 変親しみやすい先生で、こげた御飯が欲しいと言って飯盒
 の底をかきまわしたり、川でアヒル泳ぎをして遊んだこと
 もありました。やはり部員は先生に似るのでしょいか。ワ
 ンゲルの部員は個性豊かな奇人変人ばかりで大低の人が兼
 部をしています。その兼部先もかなりバラエティーに富ん
 でいますが中には生徒会役員を二期もやっている人もいま
 す。こういう部ですが他に質問は？

「はい!! この部は文化系ですか、体育系ですか。」
 うーん痛い所を突かれてしまった。実はこの部の渾名は
 『動く文化部』というんですね。右に言った兼部先もほ
 とんどが文化部ですし、ワンゲルでも定期的に練習をして
 はいないので体力は余りありませんが文化祭となると、個
 々の能力を思う存分発揮するという特異体質なんです。こ
 れだけでは少し説明不足：おっと、この部は体育系です。



生活委員会

- 一、委員数……三十八名
二、活動内容……①昼休みの立番

②遅刻防止キャンペーン

③体育祭、輝松祭の警備

④その他、風紀に関する諸問題

三、顧問……奥谷先生、鈴木先生、平井先生

「生活委員会」というと、遅刻防止キャンペーンしかやらないと思っている人も多いと思いますが、前に挙げた四項について活動を行っています。後期になって、一年生の大半が入れ替ってしまったので、只今バニック状態です。前出の①について一言。昼休み、寒い日も暑い日も、校門にへばりついている人達こそが、生活委員なのです。これは結構、重労働で（担当の先生もそうですが）、無断外出者がいなくなれば、なくなる制度なのです。

“みんなでなくそう 立番制度”

只今、やる気のある生活委員募集中！

（委員長 二F 関 英一郎）



体育委員会

わが体育委員会での活動は体育祭の計画と進行を中心とし、その他の活動をしています。

体育祭の計画では、種目、ルール、人数わりなど、体育祭の内容のほとんどを、体育委員会で決めています。種目の決定では、生徒みんなに、楽しい体育祭にしてもらうために、生徒の意見をとりいれて、決定します。今年の体育祭での、「女子騎馬戦」は、女子生徒の希望が多く行なわれた種目です。しかし、応援の面での規制が多く、かなり不満をもっていたようです。こういう反省面もありますが一年たつごとに充実した体育祭にするために私たちは力をいれています。

その他の仕事では、体育の授業の準備と指揮、球技大会の計画、輝松祭での後夜祭時行う。フォークダンスの指導その他、体育に関するだいたいの面で、活動を行っています。

このような活動を行っている体育委員会は、他の委員会ほど、かたぐるしくない活動をしています。その雰囲気は体育祭の数々の楽しい種目を生みだしているのかもしれない。このような体育委員を一度やってみてはどうでしょうか。

（委員長 二A 岩永 啓吾）

新聞委員会

一部“よんじゅうえん”印刷代です。松高新聞の。

みんなの友達が、頭をひねって原稿を書き編集しています。

毎回、徹底的に内容を追求した特集記事を組んでいます。

右記の様に、「松高新聞」は、ごみばこに、「ばい」と捨ててしまうのは、とてももったいないということが、わかりますね。青春の汗と涙と血と消しゴムのかすとえんぴつの粉を、一学期間煮込んで出来あがった一枚の新聞。読んでみませんか？

（委員長 二F 中谷 茂二）



放送委員会

この放送委員会という奴はなかなかの人気者である。それは、男の子は機械いじりとイメージが強いからだと思う。でも甘い。放送委員会は機械いじりを年がら年中しているわけではない。では何をするかというと、7割は雑用の使いっぱしりである。でも、こういう書き方をすると、つまらない委員会と思うかもしれないが、放送室内では好きなレコード、カセットをかけて聞けるからむしろ委員会の中では面白い方だと思う。また女の子は、校内に自分の美声を放送できる利点がある。ではもう少し放送委員会について書こうと思う。

まず仕事の内容というのは、行事、集会などのマイクの設置、及び校内、昼休み、下校の放送だ。校内放送というのは呼び出しやお知らせをすることで、昼休みの放送はANNとMIIXで作った番組を校内に流すことである。そして下校放送は5時にMIIXが特定のレコードをかけて、ANNが校内に残っている全校生徒に早く下校してくださいと呼びかける放送である。これが仕事の内容だ。

放送委員会はMIIXとANNの2つにわかれていて、委員長1名、副委員長2名、書記2名、会計2名、平が沢山で成り立っている。これだけ書けばだいたい放送委員会の仕事など、わかってもらえたと思う。 おわり

（委員長 二B 西尾 正信）

図書委員会

図書委員会の仕事についてこれから書くわけですが、委員会の仕事はカウンター当番だけではないのです。委員会には新聞、統計、広報、資料、読書の五つの班がある訳でそれぞれ、新聞班―松高図書新聞の作成。締切近くなつてようやくエンジンがかかる。統計班―貸出冊数の統計調査、足し算ができれば事足りる。広報班―ポスターや写真ニュースの掲示。少しさぼると、掲示物がどつと溜まる。資料班―新しい本の、松高図書館仕様への改造(?)要するに、カバーやブックポケットの貼付。読書班―読書会の開催。緊迫した話し合いになる筈が、いつしか雑談会へとずれ込む。―といった活動をしているのです。これらの班は一つ一つ大事な班で、各班に所属する委員達の活躍ぶりは目を見張るものがあります。

又、二学期末の試験休みから、冬休みにかけては蔵書点検という作業があります。これは、カードを一枚一枚本にはさんで、本がちゃんとあるかどうかを確認するという手間と労力のいる作業です。毎年、手間を少なくするために歴代委員長が頑張っているのですが……。というわけで皆さんに愛される図書館作りをめざしている図書委員会の日夜たゆまぬ努力を皆に知らしめたいと思い、この文章を書き上げました。今後とも図書館の活動にご理解、ご協力をお願いします。

(委員長 二E 野村 健)

生徒会誌編集委員会

自分の所属している委員会は、別名ル・クール委員会ともいう。はつきりいつて去年は当時の二年生が自分達一年生の知らぬ間にさつさと仕事を進めてしまい、何もやらせてもらえなかった。自分は一部の人達だけで作った「ル・クール」を見て、大粒の涙をこらえる思いをした。今年は自分が委員長に就き、平の人々の意見もどんと取り入れて委員全員で頑張つて居る。だからきつと質の高いモノができています。そう信じたい。

一学期は方針・役割を決め二学期に取材活動が集中した。一番大変なのは二学期であつた。自分の書く原稿と取材した原稿がから合い、更に編集・割付け等の仕事があり、途中輝松祭と修学旅行が入る。そういえば、何故か委員会には会計が居なかった。二学期に数名の会計を急いで決めた。副委員長は二人いたが一人は後期の生徒会役員となつて消え去つた。書記は居るが記録は自分がやっている。委員のうち一年はだいたい真面目で、二年にはなんと男がない。三年は人数が一番多いが忙しくてなかなか出席できない。だから自分は甚だ苦勞する。まあ積極性はないが皆原稿も出してくれたし……。充実した生徒会誌にはなつたと思う。この原稿が貴方の委員選挙の際にお役に立てれば大変嬉しく思います。

(委員長 二A 館野菜々子)

生徒会長御挨拶

二年D組 石井 友規

あなたは松高の生徒会の会員としての自覚を充分持っていますか?と問われて自信を持って「はい。」と言えますか。松高の生徒会の発展の為に是非とも二、三時間悩み考えてもらいたい問題と思えばこそ、あえて右のように堅苦しい質問をした訳で「つまらん文章だ。」なんて思つてとばしたりしないで下さいね。ここからは、そんなのなしだから。

生徒会総務を知らない人はいないでしょうが、やはり内容はわかっていない様子。どうやら一般的には、暗い人間が集まつて何だか訳のわからん仕事をせつせとしていてる所だと思われているようです。ところがどっこい、〇のカッパ。確かに活動内容なんてわかるはずはないし、皆さんの前で活動する時と言えば、年数回の生徒総会と体育祭、文化祭での開会式か閉会式にちよつとばかり顔を出すだけです。が、よく考えて御覧なさい。社会、保健の研究レポートを発表する時、印刷物を配りませんでしたか?その印刷物は高低、生徒会室で刷つた物でしょう。クラブで名簿や電話連絡網をコピーしたこともあつたでしょう。いえいえそれだけじゃないですね。クラブや委員会の予算を組んだり執行したり、文化祭の時は物品援助や、大工道具を貸したような記憶もあるな。俺は社会も保健もやらなかったし、クラブには入ってないし、文化祭ではあまり積極的じゃ

なかったから関係ないよ。と言う人がいるかも知れないがその考え方はあまい。君達は入学式の翌日、対面式から既に生徒会総務の企画の中にいるのだ。歓迎会でのプラスパンド部の演奏やクラブ紹介等がそれだ。

とまあ、偉そうに書いてきましたが、実はその裏にはこれだけ、又はそれ以上の仕事を一年間やっていかなければならないという使命もあるのです。

そんな苦勞も何のその。優しい顧問の上條先生、平井先生、角先生に支えられながら時には喜んではいやぎまくり時には大失敗をして大変落ちこんでいます。それでも、役員達は、朝から晩まで仕事に楽しく打ち込んで時には、必殺仕事人も見ることが出来ない時間帯まで残ったりして真冬の夜に鼻水をたらしながら家に帰った人もいます。私は既に引退しましたが、そんな時は友人に声をかけてもらうのが一番の励みですからどうか皆さんそんな役員を見かけたら「がんばれよ。」「いつも大変だね。」と言つてあげて下さい。冒頭の質問と合わせてこれが生徒会総務OBの最後のお願いです。

では最後に昭和六十年前期の生徒会役員の紹介で締めくくらせて頂きます。半年間本当に有難うございました。

生徒会長	二D 石井 友規		
副会長	二C 中沢 孝生	二F 高萩由紀夫	
会計	二A 目黒 照章	二A 木田 紀子	
	二C 山田 徳厳	二D 浜村こずえ	
書記	二A 柴田 信子	二B 奈良尾しのぶ	

編集に携わって

資料センタ
生徒会誌編集委員会顧問
鶴田 淑子

六十年生徒会誌編集委員会発足にあたっては、そのあり方について「生徒会の正しい發達のために、生徒の自治を大切にしながら、顧問の教師の指導によつて、委員会が独断におちいらぬよう配慮し、軌道修正しながら進めていこう」と資料センターで話し合つた。

はじめの二回回は、日下先生に委員会で、「生徒会誌編集委員会とは、どんな委員会か？」という原点にかえつてのお話をしていただいた。その結果、「生徒会誌編集委員会」は、生徒会の中で、放送委員会、新聞委員会とともに報道委員会の一翼を担っていることや、委員の三分の二以上の出席がなければ委員会は成立しない等の事実が、改めて確認された。

委員長は、昨年度も委員として生徒会誌編集委員会に加わっていた館野があたりになったが、彼女は、昨年、ほとんど何もさせてもらえなかったという苦い経験を持って居り、今年は、委員間の意思の疎通をはかり、仕事は全員で分担して……という意欲を持っていた。

生徒達の強い希望によって、今年も特集記事は「アンケート」になったが、今年の「ル・クール」で画期的だったことは、寄稿によるページが輝松祭の感想も入れると、十

五ページ分に及んだということだ。原稿がそれだけよく集まったのである。河崎丹美の「留学体験記」には、彼女の苦しかった、が齒をくいしばつてがんばつた貴重な体験の数々が生き生きと語られている。また、三年の山川千佳子、斎藤由起子の随想は、題材とともに三年生として堂々たるものである。小林きやか、佐藤宣子の身辺を語つた随想も小品ながらなかなかよいと思つた。一年の原田知子、ペンネームで投稿の中原みきの詩は、一般募集に応募してきたものの中から選んだ。これらの原稿は全て、資料センターで回覧し、審査して採用することにしたのである。三年の随想に関しては、赤尾先生に御協力いただき、「国語表現」の時間に書かせて下さつたものの中から、「ル・クール」用に応募を勧めていただいた。このほかにも紙面の関係でやむを得ずボツにしたものもあり、今年は原稿の集まり方が快調で、これには蔭に赤尾先生の御協力があったことを深く感謝申し上げます。

次に、今年の「ル・クール」は発行を十二月に早めた。従来の三月では、「ル・クール」を手にした後すぐクラスが変ってしまい、折角の「クラス紹介」も事後紹介となってしまうこと、「ル・クール」委員も新メンバーになってしまうので、自分達の仕事の後を反省する機会がないことなどが解消されるのではないだろうか。

至らない点多々あることと思う。皆様の御批判には、素直に耳を傾けたいと思っている。

原稿を
おとししてすみません!!
昨日の午後、先生とかに
おこられたような感じがす...
ハッ! の、突然、ほろりとした
かきこえ。またバスを
めづるも、はいが路上に入り
たかった...
田舎にうちめうしとは
ふいばのようだった。

初めのIL-7-ILに入りま
した。少々つらいこと
もありましたが、今々々々
思えば、~~xxxx~~充実してい
ましたね。
というわけで、~~xxxx~~
(I.T)

編集後記。

全地井
あんぜんちの歌カード！
あんぜんちの歌カード！

カ-!!
クラフツ紹介の扉の絵
と合わせて読んで下さい。
おめ

いふ(う)に、
おれは、
おれは、
おれは、

今回の
ルールは
けっこう疲れ
る作業がいっぱ
いで、大変だった。
アニ石開はエライんだ
よー。堀井たよー

もう原稿なんか
書きたくない
原稿のバカヤロー
①②

“ル・クール” 第三十四号

昭和六十年十二月二十五日

編集 松原高等学校生徒会誌編集委員会

代表者 館野菜々子

顧問 鶴田淑子

発行 東京都世田谷区横上水四―三―三

東京都立松原高等学校生徒会 (303)5381(代)

東京都千代田区神田神保町二―三―四 鳴海ビル

印刷 株式会社 フォレストアート (264)0801(代)

